

脳卒中発症登録集計結果

脳卒中の治療を目的に入院した患者が、退院(転院、死亡含む)した場合に、県内の医療機関から提供された発症登録の集計結果は次のとおりである。

ここでは脳卒中発症登録票(様式1号)※に基づき提供された脳卒中患者情報のうち、平成27年1月1日から平成27年12月31日までに医療機関を退院したものについて扱う。(本文、表中の率【%】については小数点以下第2位を四捨五入した値、図中の率【%】については小数点以下第1位を四捨五入した値を示した。)

※平成27年4月1日より、脳卒中発症登録票の項目の追加及び変更を行った。追加及び変更を行った集計項目に関しては、【追加】【変更】と表示する。

【平成27年の主な状況】

- 届出は合計4,773件、32医療機関からの届出があった。
旧登録票(平成22年1月から平成27年3月まで使用)は537件、新登録票(平成27年4月から使用)は4,236件であった。
- 脳卒中の分類別では、脳梗塞が3,144件(65.9%)、脳内出血が1,016件(21.3%)、くも膜下出血が309件(6.5%)、その他の脳卒中が304件(6.4%)であった。
- 再発者は1,175件で全体の約1/4(24.6%)を占めた。
- 発症時の合併症は高血圧が最も多く男性が63.8%、女性が66.5%であった。

1 医療機関所在地別報告状況

協力医療機関の所在地により区分した場合の報告状況である。

協力医療機関所在地区分	協力医療機関数	発症登録件数	うち死亡件数
宇都宮市	6	1,425	135
県西健康福祉センター	5	419	56
県東健康福祉センター	3	374	39
県南健康福祉センター	9	945	120
県北健康福祉センター	7	1,056	96
安足健康福祉センター	2	554	52
合計	32	4,773	498
機能別医療機関 急性期	6	1,359	138
機能別医療機関 急性期及び回復期	12	2,874	297
機能別医療機関 回復期	11	437	46
それ以外の医療機関	3	103	17

2 患者住所地別報告状況

登録された患者の住所により区分した場合の報告状況である。

患者住所地区分	協力医療機関数	発症登録件数	うち死亡件数
宇都宮市	24	1,100	108
県西健康福祉センター	19	562	68
県東健康福祉センター	17	464	48
県南健康福祉センター	23	932	141
県北健康福祉センター	19	1,183	85
安足健康福祉センター	7	532	48
合計	—	4,773	498

3 病型別・初発再発別登録状況

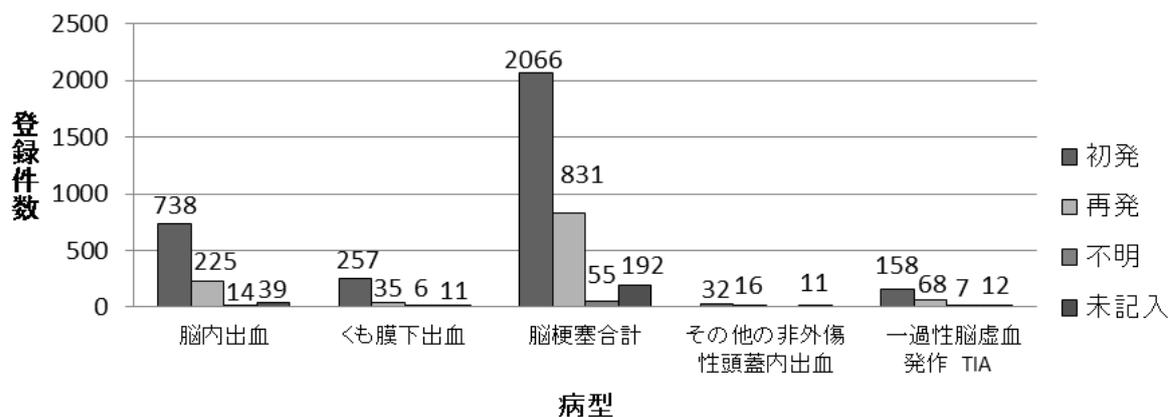
病型別の登録状況では、脳梗塞合計が最も多く3,144件(65.9%)、次いで脳内出血1016件(21.3%)、くも膜下出血309件(6.5%)であった。初発再発別の登録状況では、初発の診断が3,251件(68.1%)、再発が1,175件(24.6%)、不明が82件(1.7%)、未記入が265件(5.6%)であった(表1・図1)。

病型別の再発率は、脳梗塞合計で26.4%(831/3,144件)、脳内出血で22.1%(225/1,016件)、くも膜下出血で11.3%(35/309件)であった。

表1 病型別・初発再発別登録件数

診断病型	初発	再発	不明	未記入	総計
脳内出血	738	225	14	39	1016
くも膜下出血	257	35	6	11	309
脳梗塞合計	2066	831	55	192	3144
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	806	270	26	38	1140
脳梗塞-心原性脳梗塞	508	229	10	21	768
脳梗塞-ラクナ梗塞	424	189	5	61	679
脳梗塞-その他の脳梗塞	186	76	10	47	319
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	90	33	3	2	128
脳梗塞-未記入	52	34	1	23	110
その他の非外傷性頭蓋内出血	32	16		11	59
一過性脳虚血発作 TIA	158	68	7	12	245
総計	3251	1175	82	265	4773

図1 病型別・初発再発別登録件数



4 性別・年齢階級別登録状況

1) 性別・年齢階級別登録状況

性別では、男は2,650件(55.5%)、女は2,123件(44.5%)で、男が多かった。

年齢階級別では、男は70歳代が809件(30.5%)、女は80歳代が833件(39.2%)と最も多かった(図2・3・4)。

図2 性別・年齢階級別登録件数

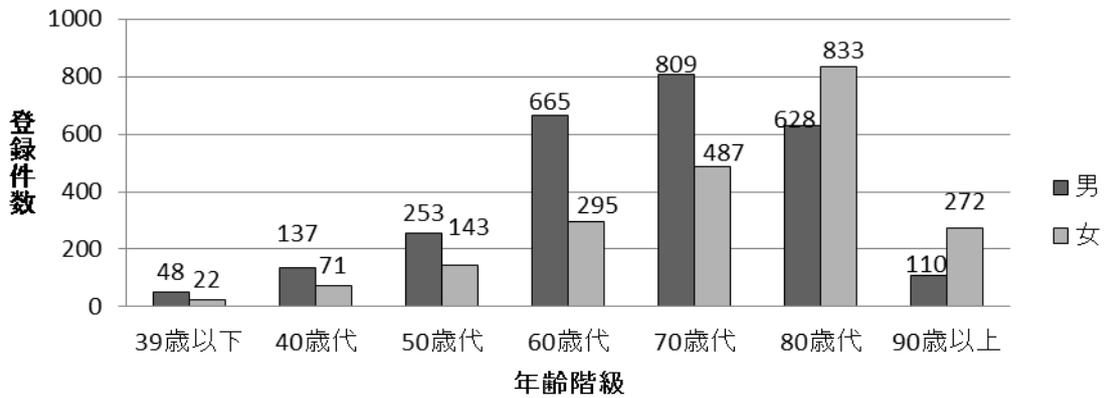


図3 年齢階級別の登録者の構成

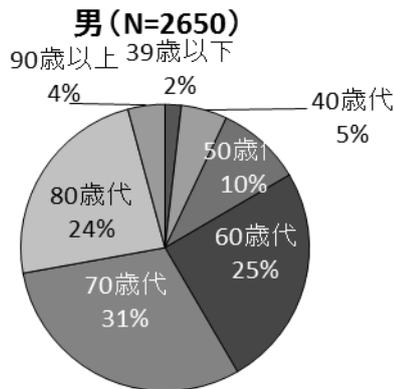
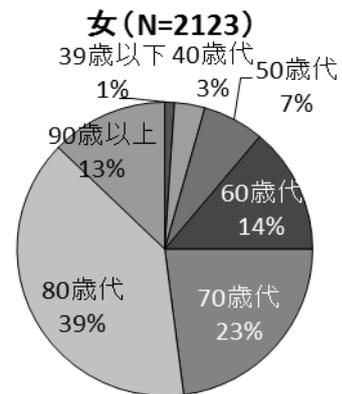


図4 年齢階級別の登録者の構成



2) 病型別・初発再発別・性別・年齢階級別登録状況

(1) 脳内出血

初発は、男 427 件、女 311 件で、男は 60 歳代が 143 件 (33.5%)、女は 80 歳代が 111 件 (35.7%) と最も多かった (図 5)。

再発は、男 129 件、女 96 件で、男は 70 歳代が 39 件 (30.2%)、女は 80 歳代が 37 件 (38.5%) と最も多かった (図 6)。

図5 性別・年齢階級別登録件数(脳内出血 初発)

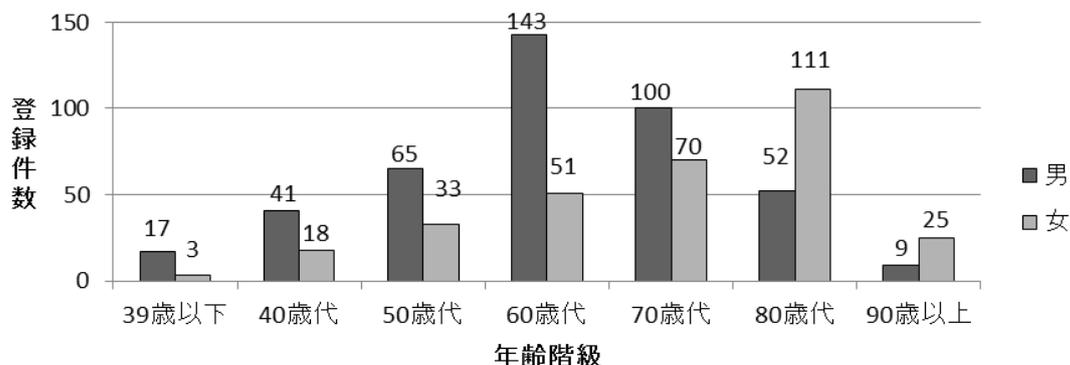
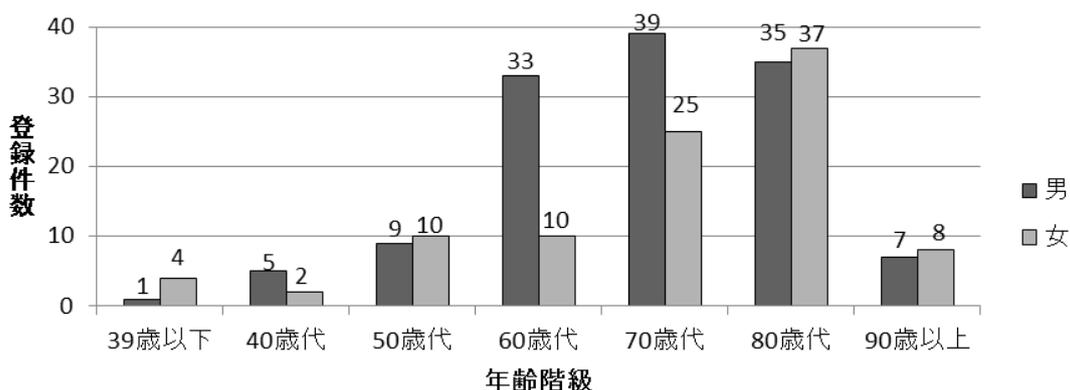


図6 性別・年齢階級別登録件数(脳内出血 再発)



(2) くも膜下出血

初発は、男は 84 件、女は 173 件で、男は 60 歳代が 21 件 (25.0%)、女は 70 歳代が 42 件 (24.3%) と最も多かった (図 7)。

再発は、男は 7 件、女は 28 件で、全体に報告数が少なく、女は 80 歳代が最も多かった (図 8)。

図7 性別・年齢階級別登録件数(くも膜下出血 初発)

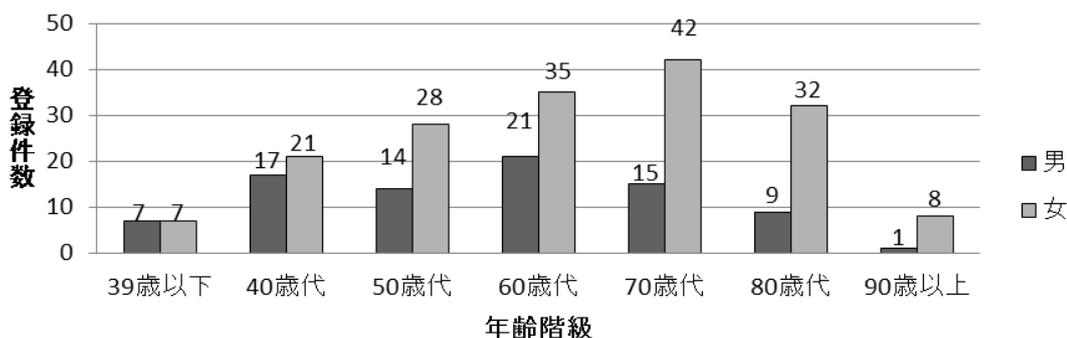
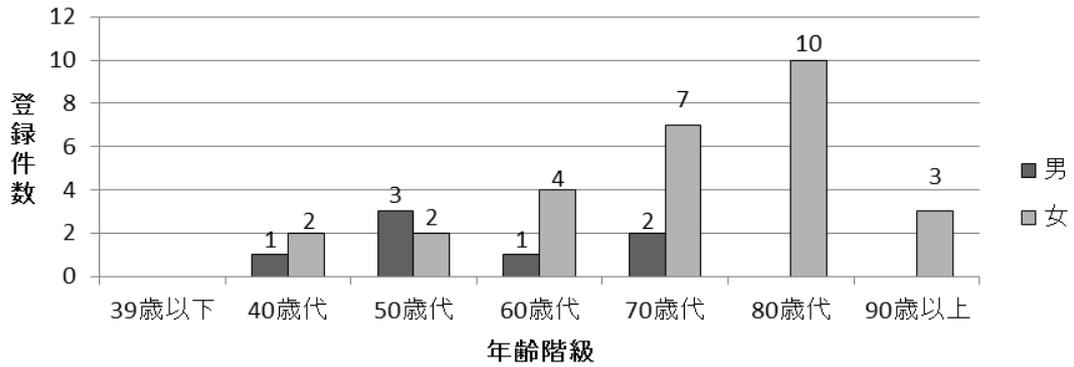


図8 性別・年齢階級別登録件数(くも膜下出血 再発)



(3)脳梗塞

①脳梗塞合計*

初発は、男は1,169件、女は897件で、男は70歳代が368件(31.5%)と最も多く、女は80歳代が352件(39.2%)と最も多かった(図9)。

再発は、男は486件、女は345件で、男は70歳代が175件(36.0%)と最も多く、女は80歳代が170件(49.3%)と最も多かった(図10)。

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

図9 性別・年齢階級別登録件数(脳梗塞合計 初発)

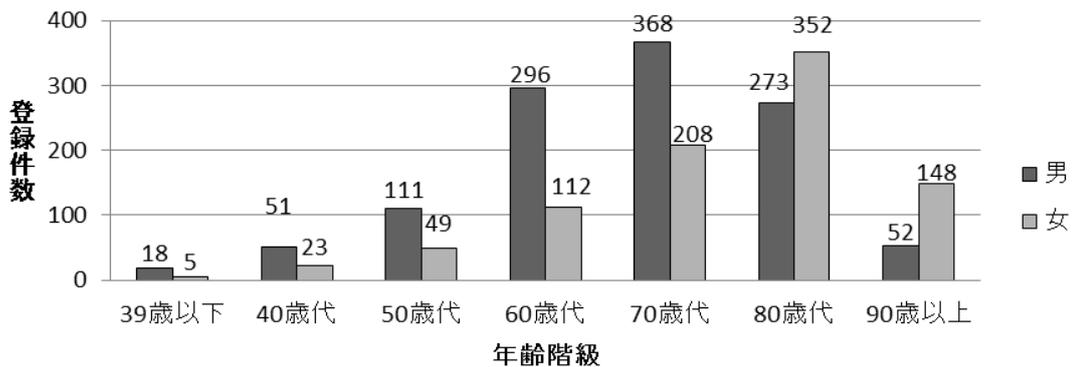
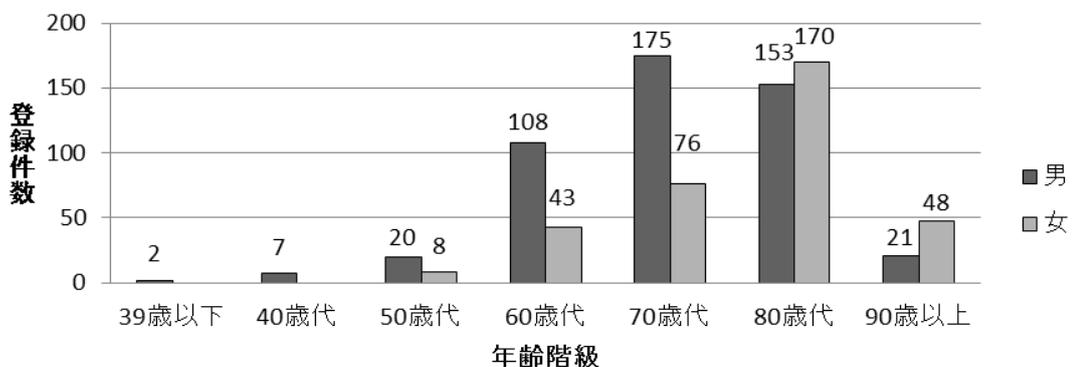


図10 性別・年齢階級別登録件数(脳梗塞合計 再発)



②アテローム血栓性梗塞

初発は、男は473件、女は333件で、男は70歳代が150件(31.7%)、女は80歳代が119件(35.7%)と最も多かった(図11)。

再発は、男は164件、女は106件で、男は70歳代が63件(38.4%)、女は80歳代が47件(44.3%)と最も多かった(図12)。

図11 性別・年齢階級別登録件数(アテローム血栓性梗塞 初発)

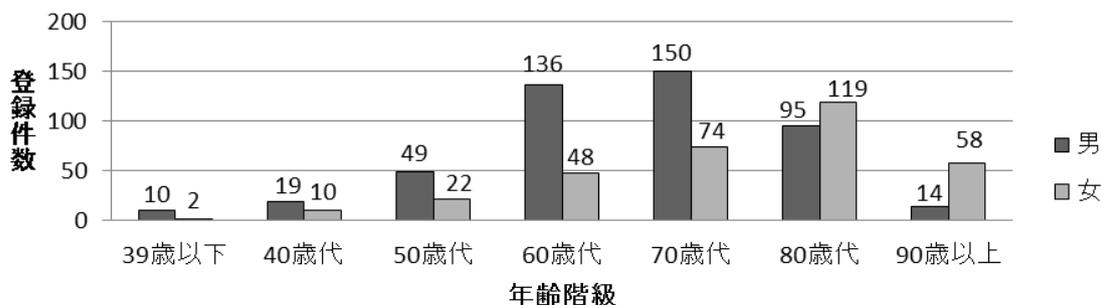
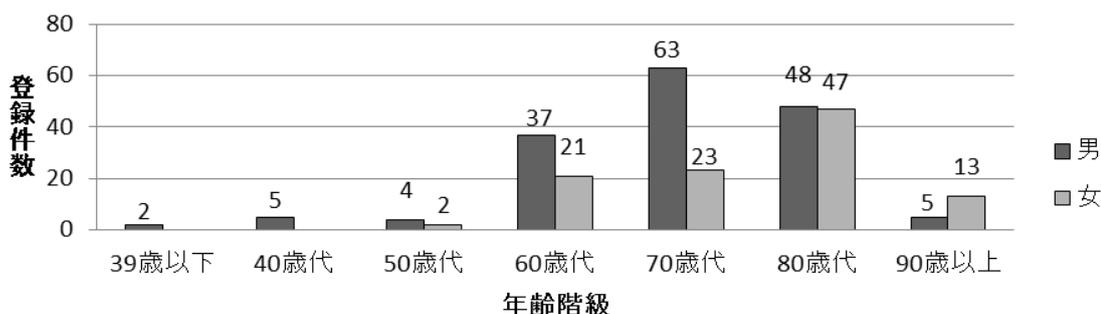


図12 性別・年齢階級別登録件数(アテローム血栓性梗塞 再発)



③心原性脳梗塞

初発は、男は260件、女は248件で、男は70歳代が97件(37.3%)、女は80歳代が115件(46.4%)と最も多かった(図13)。

再発は、男は125件、女は104件で、男は70歳代が50件(40.0%)、女は80歳代が58件(55.8%)と最も多かった(図14)。

図13 性別・年齢階級別登録件数(心原性脳梗塞 初発)

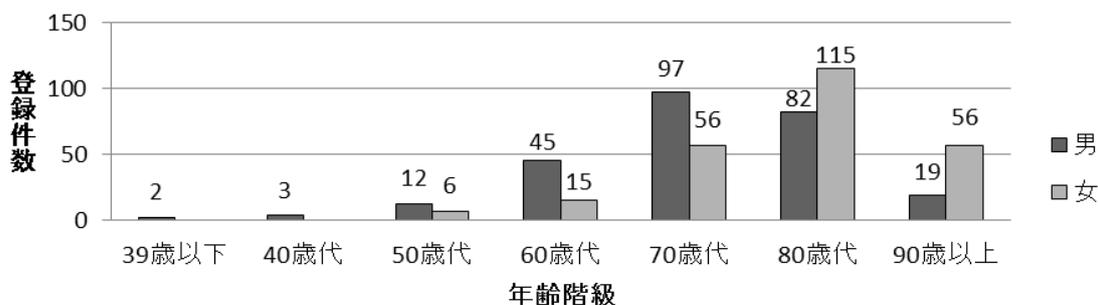
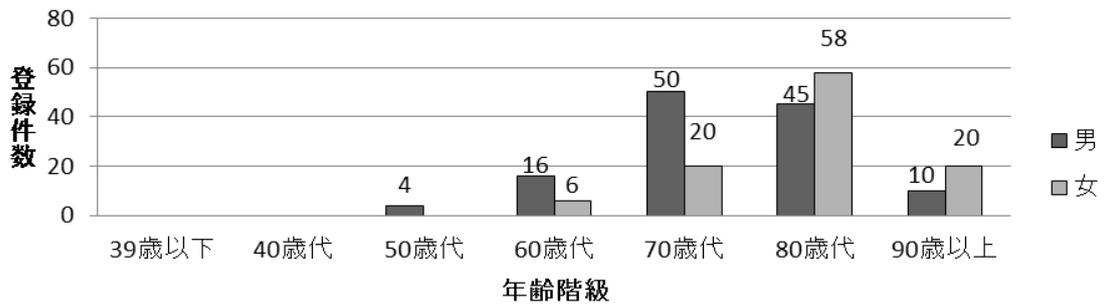


図14 性別・年齢階級別登録件数(心原性脳梗塞 再発)



④ラクナ梗塞

初発は、男は252件、女は172件で、男は60歳代が75件(29.8%)、女は80歳代が62件(36.0%)と最も多かった(図15)。

再発は、男は125件、女は64件で、男は70歳代が40件(32.0%)、女は80歳代が31件(48.4%)と最も多かった(図16)。

図15 性別・年齢階級別登録件数(ラクナ梗塞 初発)

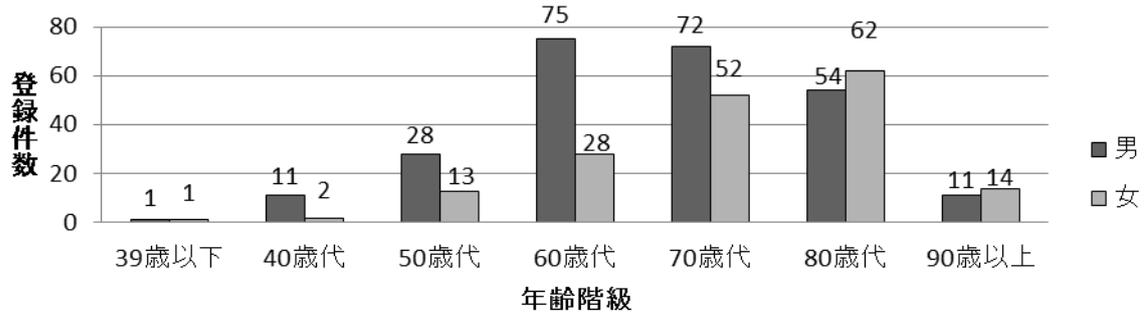
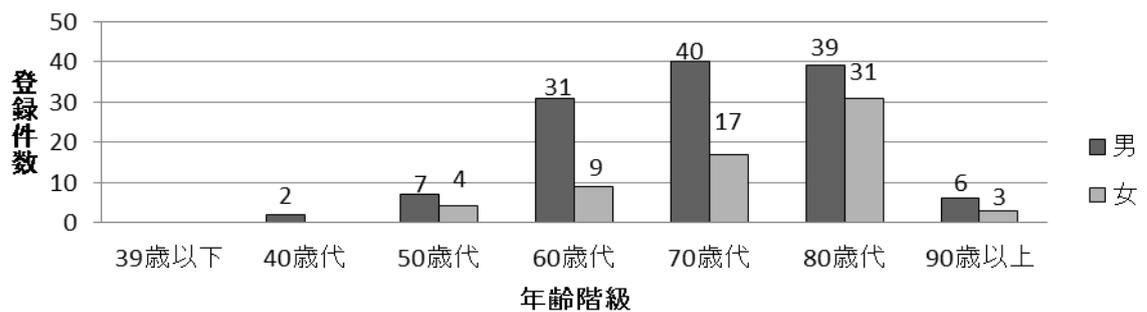


図16 性別・年齢階級別登録件数(ラクナ梗塞 再発)



(4)一過性脳虚血発作 TIA

初発は、男は84件、女は74件で、男は70歳代が24件(28.6%)、女は80歳代が24件(32.4%)と最も多かった(図17)。

再発は、男は43件、女は25件で、男は70歳代が16件(37.2%)、女は80歳代が14件(56.0%)と最も多かった(図18)。

図17 性別・年齢階級別登録件数(一過性脳虚血発作 TIA 初発)

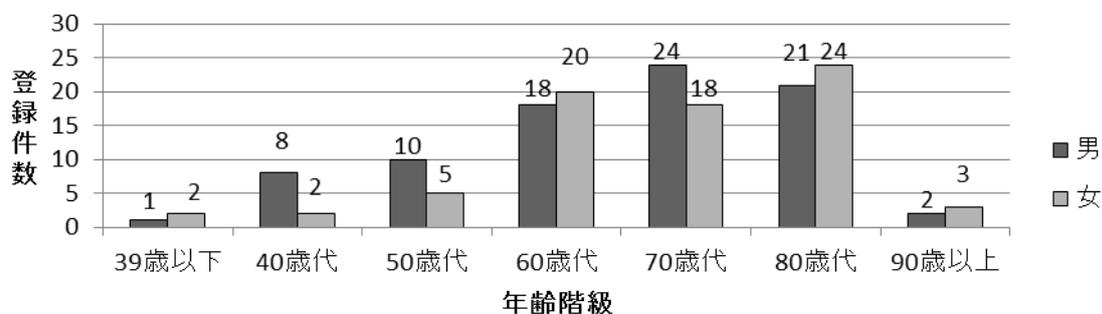
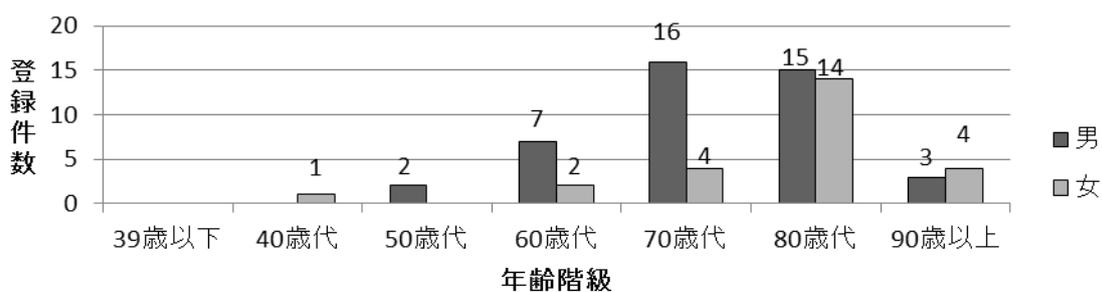


図18 性別・年齢階級別登録件数(一過性脳虚血発作 TIA 再発)

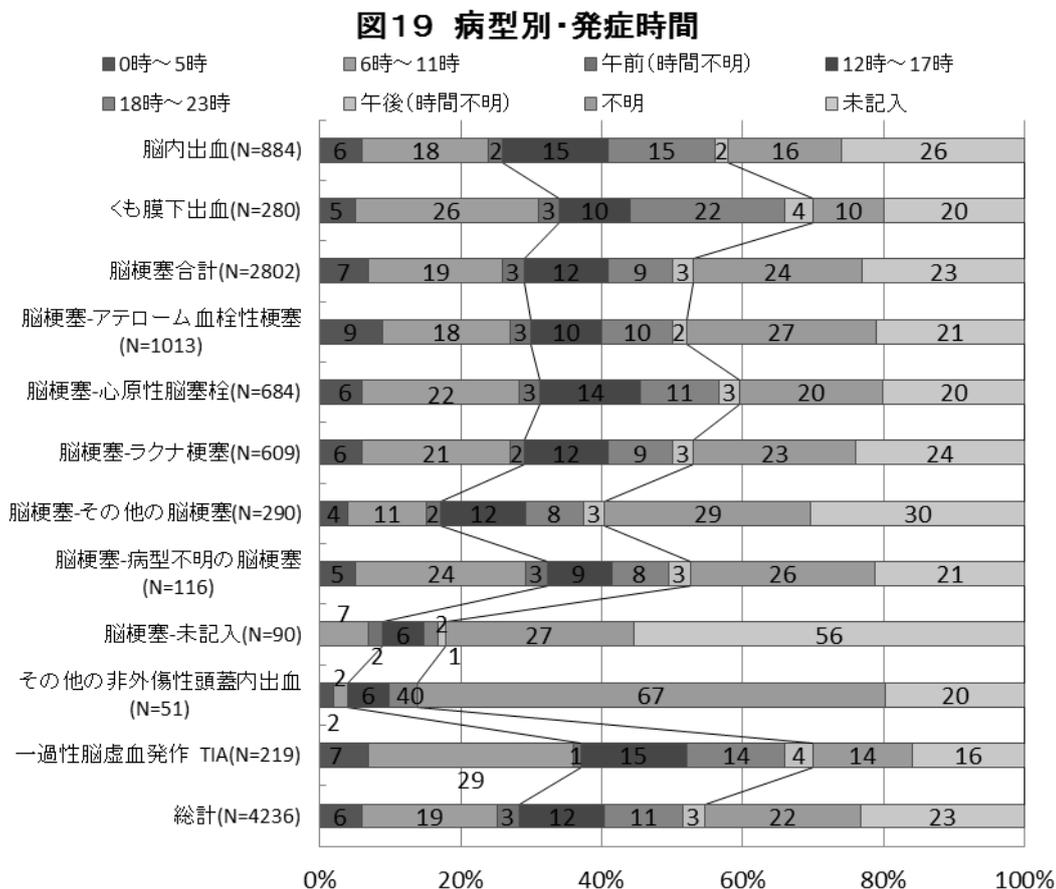


3) 病型別・発症時間別・発症場所別登録状況【追加】

(1) 発症時間

発症時間は、脳内出血での午前発症は226件(25.6%)、午後発症は288件(32.6%)だった。脳梗塞合計*での午前発症は797件(28.4%)、午後発症は666件(23.8%)だった。一過性虚血発作TIAでの午前発症は、81件(37.0%)、午後発症は72件(32.9%)であった。(図19)。

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計



(2) 発症場所

全ての診断病型において、居室内での発症が一番多かった(表2)。

表2 病型別・発生場所

診断病型	登録数	屋外	居室内	風呂場(脱衣場)	風呂場(浴室内)	トイレ	廊下	院内	その他	不明	未記入
脳内出血	884	91 (10.3%)	368 (41.6%)	9 (1.0%)	20 (2.3%)	19 (2.10%)	9 (1.00%)	14 (1.6%)	52 (5.9%)	70 (7.9%)	232 (26.2%)
くも膜下出血	280	18 (6.4%)	139 (49.6%)	3 (1.1%)	13 (4.6%)	6 (2.10%)	3 (1.10%)	3 (1.1%)	15 (5.4%)	24 (8.6%)	56 (20.0%)
脳梗塞合計	2802	148 (5.3%)	1356 (48.4%)	12 (0.4%)	12 (0.4%)	51 (1.80%)	8 (0.30%)	106 (3.8%)	63 (2.2%)	397 (14.2%)	649 (23.2%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	1013	59 (5.8%)	490 (48.4%)	8 (0.8%)	6 (0.6%)	18 (1.80%)	4 (0.40%)	33 (3.3%)	23 (2.3%)	161 (15.9%)	211 (20.8%)
脳梗塞-心原性脳塞栓	684	38 (5.6%)	377 (55.1%)	2 (0.3%)	2 (0.3%)	20 (2.90%)	1 (0.10%)	37 (5.4%)	22 (3.2%)	52 (7.6%)	133 (19.4%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	609	27 (4.4%)	300 (49.3%)	2 (0.3%)	3 (0.5%)	9 (1.50%)	2 (0.30%)	13 (2.1%)	14 (2.3%)	91 (14.9%)	148 (24.3%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	290	14 (4.8%)	123 (42.4%)	(0.0%)	1 (0.3%)	3 (1.00%)	(0.00%)	10 (3.4%)	4 (1.4%)	48 (16.6%)	87 (30.0%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	116	8 (6.9%)	43 (37.1%)	(0.0%)	(0.0%)	1 (0.90%)	1 (0.90%)	12 (10.3%)	(0.0%)	29 (25.0%)	22 (19.0%)
脳梗塞-未記入	90	2 (2.2%)	23 (25.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.00%)	(0.00%)	1 (1.1%)	(0.0%)	16 (17.8%)	48 (53.3%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	51	5 (9.8%)	17 (33.3%)	(0.0%)	1 (2.0%)	(0.00%)	(0.00%)	3 (5.9%)	(0.0%)	15 (29.4%)	10 (19.6%)
一過性脳虚血発作 TIA	219	19 (8.7%)	108 (49.3%)	(0.0%)	5 (2.3%)	6 (2.70%)	1 (0.50%)	5 (2.3%)	13 (5.9%)	27 (12.3%)	35 (16.0%)
総計	4236	281 (6.6%)	1988 (46.9%)	24 (0.6%)	51 (1.2%)	82 (1.90%)	21 (0.50%)	131 (3.1%)	143 (3.4%)	533 (12.6%)	982 (23.2%)

5 患者の受診状況

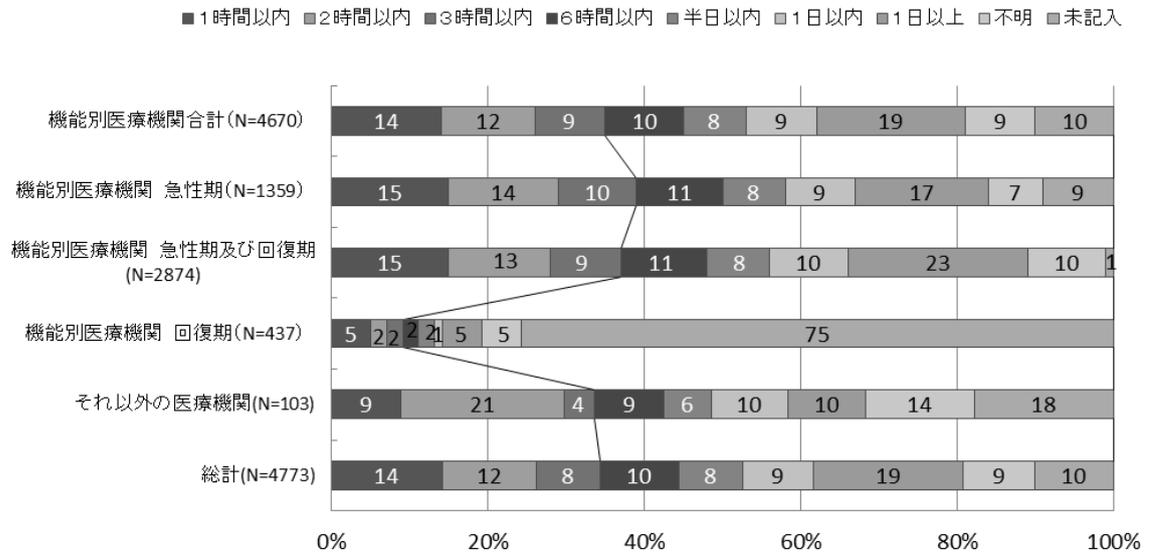
1) 受診までの経過時間

(1) 受診までの経過時間（機能別医療機関別）

受診までの経過時間が3時間以内の割合は、全医療機関で34.8%、脳卒中の機能別医療機関では34.9%、それ以外の医療機関では34.0%だった。機能別医療機関のうち、急性期治療を担う医療機関*では37.5%だった（図20）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図20 受診までの経過時間(機能別医療機関別)

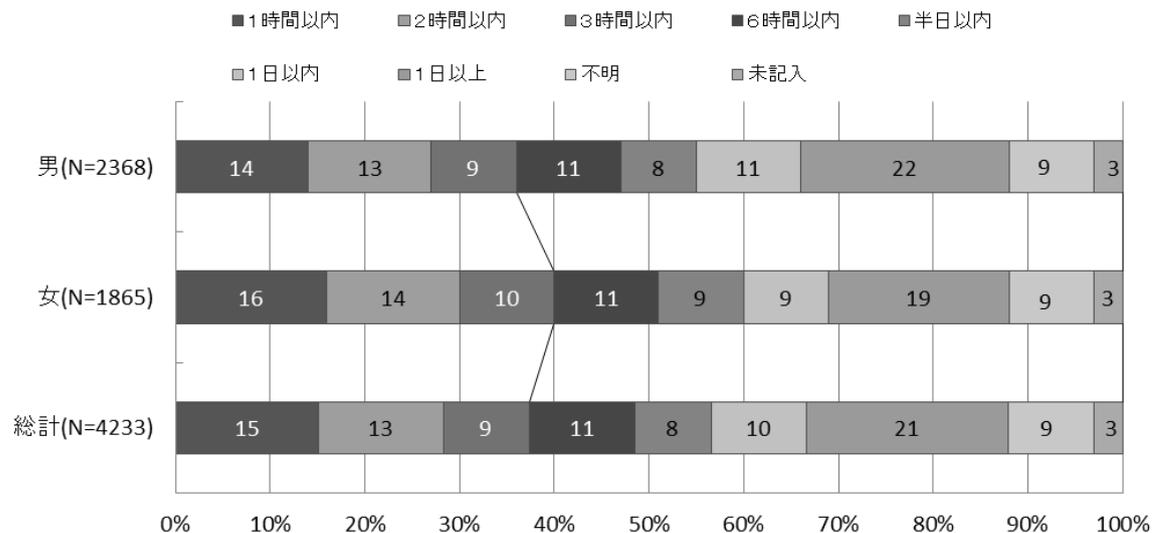


(2) 急性期治療を担う医療機関*における受診までの経過時間（性別）

受診までの経過時間が3時間以内の割合は、男で35.4%、女40.2%であった（図21）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図21 受診までの経過時間(性別)



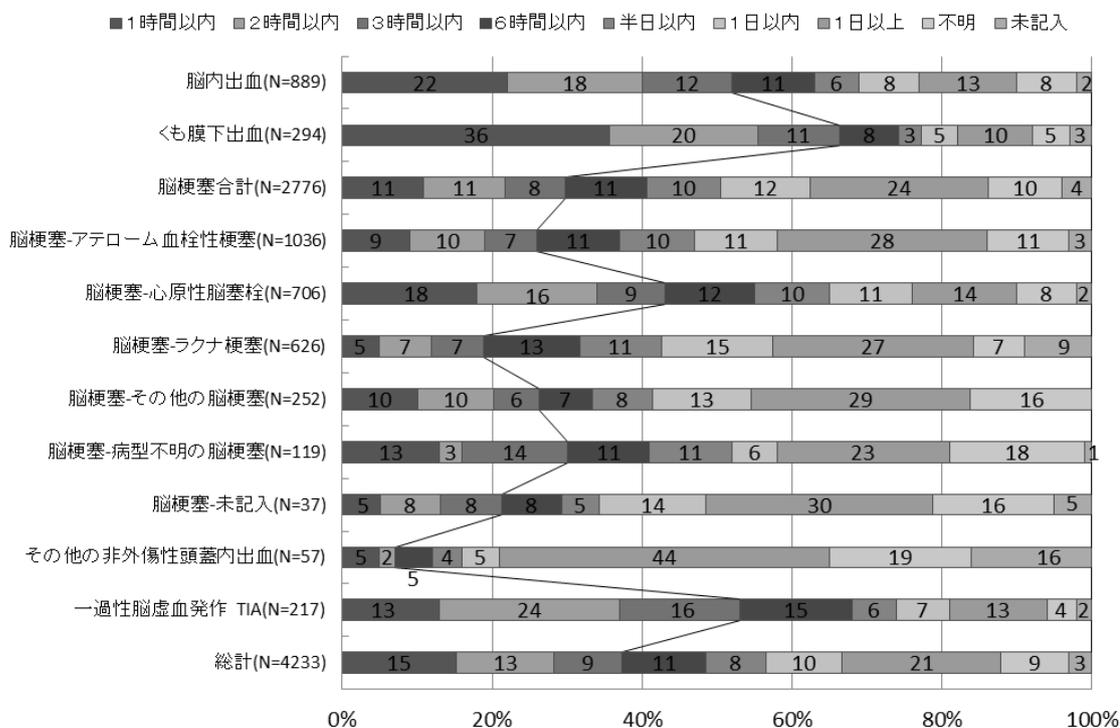
(3) 急性期治療を担う医療機関*における受診までの経過時間（病型別）

受診までの経過時間が3時間以内の割合は、くも膜下出血で66.3%と高く、次いで脳内出血では51.2%であった。一方、脳梗塞合計**では29.5%であり、他の病型に比べ発症からの経過時間が長い傾向がみられた（図22）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

**アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

図22 受診までの経過時間(病型別)

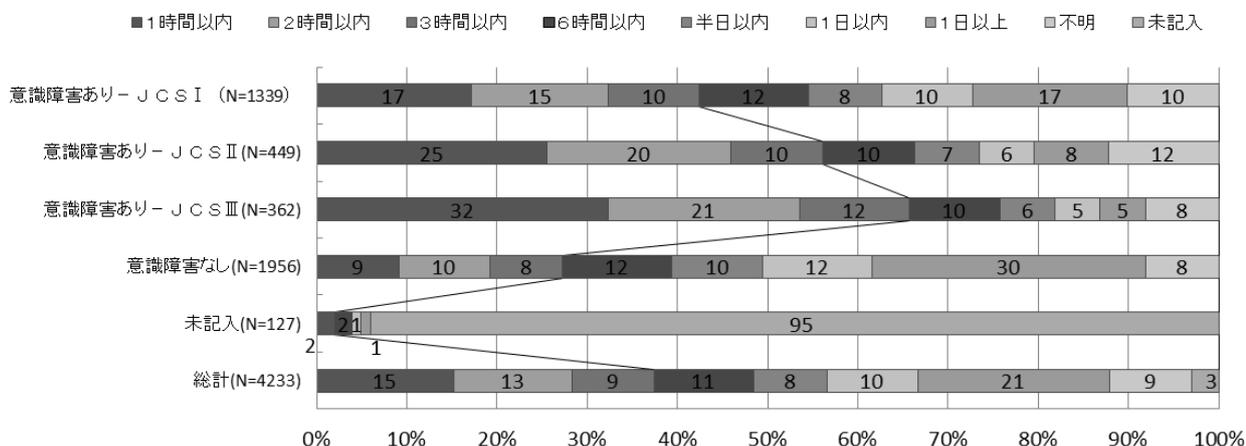


(4) 急性期治療を担う医療機関*における受診までの経過時間（意識障害の程度別）

受診までの経過時間が3時間以内の割合は、意識障害が重度である JCS-III（刺激しても覚醒しない状態）が65.7%であり、次いで JCS-II（刺激すると覚醒する状態、刺激をやめると眠り込む状態）が55.7%、JCS-I（刺激しないでも覚醒している状態）が42.4%であり、意識障害が重度であるほど受診までの時間は短かった。（図23）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図23 受診までの経過時間(意識障害の程度別)



2) 受診の手段

(1) 受診の手段（機能別医療機関別）

全医療機関における受診の手段は、救急車（消防）49.5%、自家用車等35.1%の順に多かった。急性期治療を担う医療機関*では、救急車（消防）による受診が53.5%、であった（表3）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表3 受診の手段(機能別医療機関別)

機能別医療機関	登録数	救急車(消防)	救急車(他医療機関)	自家用車等	その他	未記入
機能別医療機関合計	4670	2300 (49.3%)	67 (1.4%)	1662 (35.6%)	182 (3.9%)	459 (9.8%)
機能別医療機関 急性期	1359	754 (55.5%)	19 (1.4%)	421 (31.0%)	49 (3.6%)	116 (8.5%)
機能別医療機関 急性期及び回復期	2874	1512 (52.6%)	39 (1.4%)	1195 (41.6%)	112 (3.9%)	16 (0.6%)
機能別医療機関 回復期	437	34 (7.8%)	9 (2.1%)	46 (10.5%)	21 (4.8%)	327 (74.8%)
それ以外の医療機関	103	62 (60.2%)	2 (1.9%)	15 (14.6%)	5 (4.9%)	19 (18.4%)
総計	4773	2362 (49.5%)	69 (1.4%)	1677 (35.1%)	187 (3.9%)	478 (10.0%)

(2) 急性期治療を担う医療機関*における受診の手段（病型別）

救急車（消防）による受診が、脳内出血では74.6%、くも膜下出血が77.9%と7割以上を占め、脳梗塞合計では、自家用車等による受診が46.1%と多かった。脳梗塞の細分類別に見ると、ラクナ梗塞では57.3%、アテローム血栓性梗塞では48.9%が自家用車等で受診していた（表4）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表4 受診の手段(病型別)

診断病型	登録数	救急車(消防)	救急車(他医療機関)	自家用車等	その他	未記入
脳内出血	889	663 (74.6%)	19 (2.1%)	166 (18.7%)	26 (2.9%)	15 (1.7%)
くも膜下出血	294	229 (77.9%)	11 (3.7%)	37 (12.6%)	10 (3.4%)	7 (2.4%)
脳梗塞合計	2776	1254 (45.2%)	27 (1.0%)	1279 (46.1%)	120 (4.3%)	96 (3.5%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	1036	452 (43.6%)	14 (1.4%)	507 (48.9%)	38 (3.7%)	25 (2.4%)
脳梗塞-心原性脳梗塞	706	437 (61.9%)	8 (1.1%)	202 (28.6%)	49 (6.9%)	10 (1.4%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	626	193 (30.8%)	2 (0.3%)	359 (57.3%)	15 (2.4%)	57 (9.1%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	252	117 (46.4%)	1 (0.4%)	126 (50.0%)	7 (2.8%)	1 (0.4%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	119	44 (37.0%)	2 (1.7%)	62 (52.1%)	10 (8.4%)	1 (0.8%)
脳梗塞-未記入	37	11 (29.7%)	(0.0%)	23 (62.2%)	1 (2.7%)	2 (5.4%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	57	18 (31.6%)	1 (1.8%)	26 (45.6%)	3 (5.3%)	9 (15.8%)
一過性脳虚血発作 TIA	217	102 (47.0%)	(0.0%)	108 (49.8%)	2 (0.9%)	5 (2.3%)
総計	4233	2266 (53.5%)	58 (1.4%)	1616 (38.2%)	161 (3.8%)	132 (3.1%)

(3) 急性期治療を担う医療機関*における受診の手段（意識障害の程度別）

救急車（消防）による受診は、意識障害が重度であるJCS-Ⅲが89.0%と最も多く、意識障害なしでは、59.4%が自家用車等で受診していた（表5）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表5 受診の手段(意識障害の程度別)

意識障害	登録数	救急車(消防)	救急車(他医療機関)	自家用車等	その他	未記入
意識障害あり-JCS I	1339	867 (64.7%)	18 (1.3%)	401 (29.9%)	50 (3.7%)	3 (0.2%)
意識障害あり-JCS II	449	375 (83.5%)	11 (2.4%)	45 (10.0%)	18 (4.0%)	(0.0%)
意識障害あり-JCS III	362	322 (89.0%)	5 (1.4%)	6 (1.7%)	29 (8.0%)	(0.0%)
意識障害なし	1956	699 (35.7%)	24 (1.2%)	1161 (59.4%)	64 (3.3%)	8 (0.4%)
未記入	127	3 (2.4%)	(0.0%)	3 (2.4%)	(0.0%)	121 (95.3%)
総計	4233	2266 (53.5%)	58 (1.4%)	1616 (38.2%)	161 (3.8%)	132 (3.1%)

3) 機能別医療機関別 (病型別)

病型別に機能別医療機関の登録の状況を見ると、急性期治療を担う医療機関*からの登録は、脳内出血 87.5%、くも膜下出血 95.1%、脳梗塞合計**88.3%で多くを占めた (表 6)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

**アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

表6 機能別医療機関別 (病型別)

診断病型	登録数	脳卒中の機能別医療機関合計	急性期	急性期及び回復期	回復期	それ以外の医療機関
脳内出血	1016	998 (98.2%)	312 (30.7%)	577 (56.8%)	109 (10.7%)	18 (1.8%)
くも膜下出血	309	306 (99.0%)	132 (42.7%)	162 (52.4%)	12 (3.9%)	3 (1.0%)
脳梗塞合計	3144	3074 (97.8%)	832 (26.5%)	1944 (61.8%)	298 (9.5%)	70 (2.2%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	1140	1113 (97.6%)	298 (26.1%)	738 (64.7%)	77 (6.8%)	27 (2.4%)
脳梗塞-心原性脳梗塞	768	749 (97.5%)	229 (29.8%)	477 (62.1%)	43 (5.6%)	19 (2.5%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	679	659 (97.1%)	199 (29.3%)	427 (62.9%)	33 (4.9%)	20 (2.9%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	319	315 (98.7%)	67 (21.0%)	185 (58.0%)	63 (19.7%)	4 (1.3%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	128	128 (100.0%)	31 (24.2%)	88 (68.8%)	9 (7.0%)	(0.0%)
脳梗塞-未記入	110	110 (100.0%)	8 (7.3%)	29 (26.4%)	73 (66.4%)	(0.0%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	59	59 (100.0%)	9 (15.3%)	48 (81.4%)	2 (3.4%)	(0.0%)
一過性脳虚血発作 TIA	245	233 (95.1%)	74 (30.2%)	143 (58.4%)	16 (6.5%)	12 (4.9%)
総計	4773	4670 (97.8%)	1359 (28.5%)	2874 (60.2%)	437 (9.2%)	103 (2.2%)

4) 診断に用いた検査 (複数回答)【変更】

(1) 診断に用いた検査 (機能別医療機関別)

急性期治療を担う医療機関*では、MRI・CTが多かった(表 7)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表7 診断に用いた検査 (機能別医療機関別)

機能別医療機関	登録数	MRI・CT	MRA・CTA	心電図	超音波検査	血管撮影	その他	未記入
機能別医療機関合計	4154	3570 (85.9%)	1354 (32.6%)	1039 (25.0%)	502 (12.1%)	95 (2.3%)	483 (11.6%)	448 (10.8%)
機能別医療機関 急性期	1271	1100 (86.5%)	591 (46.5%)	599 (47.1%)	387 (30.4%)	81 (6.4%)	466 (36.7%)	137 (10.8%)
機能別医療機関 急性期及び回復期	2507	2386 (95.2%)	759 (30.3%)	424 (16.9%)	113 (4.5%)	14 (0.6%)	13 (0.5%)	22 (0.9%)
機能別医療機関 回復期	376	84 (22.3%)	4 (1.1%)	16 (4.3%)	2 (0.5%)	(0.0%)	4 (1.1%)	289 (76.9%)
それ以外の医療機関	82	64 (78.0%)	2 (2.4%)	2 (2.4%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	18 (22.0%)
総計	4236	3634 (85.8%)	1356 (32.0%)	1041 (24.6%)	502 (11.9%)	95 (2.2%)	483 (11.4%)	466 (11.0%)

(2) 急性期治療を担う医療機関*における診断に用いた検査 (病型別)

脳内出血、脳梗塞合計**及び一過性脳虚血発作 TIA ではMRI・CTが9割以上と多かった(表 8)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

**アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

表8 診断に用いた検査(病型別)

診断病型	登録数	MRI・CT	MRA・CTA	心電図	超音波検査	血管撮影	その他	未記入
脳内出血	773	738 (95.5%)	126 (16.3%)	166 (21.5%)	26 (3.4%)	11 (1.4%)	91 (11.8%)	29 (3.8%)
くも膜下出血	266	224 (84.2%)	98 (36.8%)	68 (25.6%)	23 (8.6%)	60 (22.6%)	27 (10.2%)	10 (3.8%)
脳梗塞合計	2493	2298 (92.2%)	1030 (41.3%)	705 (28.3%)	403 (16.2%)	24 (1.0%)	316 (12.7%)	110 (4.4%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	926	858 (92.7%)	411 (44.4%)	241 (26.0%)	183 (19.8%)	9 (1.0%)	137 (14.8%)	36 (3.9%)
脳梗塞-心原性脳梗塞	633	596 (94.2%)	263 (41.5%)	299 (47.2%)	118 (18.6%)	9 (1.4%)	98 (15.5%)	13 (2.1%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	566	489 (86.4%)	220 (38.9%)	116 (20.5%)	77 (13.6%)	2 (0.4%)	64 (11.3%)	54 (9.5%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	231	222 (96.1%)	84 (36.4%)	36 (15.6%)	20 (8.7%)	4 (1.7%)	14 (6.1%)	5 (2.2%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	109	107 (98.2%)	46 (42.2%)	11 (10.1%)	5 (4.6%)	(0.0%)	2 (1.8%)	(0.0%)
脳梗塞-未記入	28	26 (92.9%)	6 (21.4%)	2 (7.1%)	(0.0%)	(0.0%)	1 (3.6%)	2 (7.1%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	49	40 (81.6%)	1 (2.0%)	20 (40.8%)	1 (2.0%)	(0.0%)	1 (2.0%)	7 (14.3%)
一過性脳虚血発作 TIA	197	186 (94.4%)	95 (48.2%)	64 (32.5%)	47 (23.9%)	(0.0%)	44 (22.3%)	3 (1.5%)
総計	3778	3486 (92.3%)	1350 (35.7%)	1023 (27.1%)	500 (13.2%)	95 (2.5%)	479 (12.7%)	159 (4.2%)

(3) 急性期治療を担う医療機関*における診断に用いた検査（意識障害の程度別）

重症度に関わらず、MRI・CTを8割以上で実施していた。（表9）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表9 診断に用いた検査（意識障害の程度別）

意識障害	登録数	MRI・CT	MRA・CTA	心電図	超音波検査	血管撮影	その他	未記入
意識障害あり-JCS I	1192	1128 (94.6%)	440 (36.9%)	353 (29.6%)	158 (13.3%)	34 (2.9%)	153 (12.8%)	15 (1.3%)
意識障害あり-JCS II	396	377 (95.2%)	130 (32.8%)	125 (31.6%)	44 (11.1%)	26 (6.6%)	53 (13.4%)	3 (0.8%)
意識障害あり-JCS III	323	312 (96.6%)	69 (21.4%)	92 (28.5%)	29 (9.0%)	9 (2.8%)	44 (13.6%)	2 (0.6%)
意識障害なし	1761	1665 (94.5%)	710 (40.3%)	452 (25.7%)	269 (15.3%)	26 (1.5%)	229 (13.0%)	37 (2.1%)
未記入	106	4 (3.8%)	1 (0.9%)	1 (0.9%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	102 (96.2%)
総計	3778	3486 (92.3%)	1350 (35.7%)	1023 (27.1%)	500 (13.2%)	95 (2.5%)	479 (12.7%)	159 (4.2%)

5) リハビリテーション

(1) リハビリテーションの実施状況（機能別医療機関別）

急性期及び回復期医療機関の実施率は 78.4%と高く、機能別医療機関以外の医療機関では 37.9%と低い傾向があった（表10）。

表10 リハビリテーションの実施状況（機能別医療機関別）

診断病型	登録数	実施	未実施	未記入	実施率
機能別医療機関合計	4670	3615	752	303	77.4%
機能別医療機関 急性期	1359	1029	210	120	75.7%
機能別医療機関 急性期及び回復期	2874	2290	510	74	79.7%
機能別医療機関 回復期	437	296	32	109	67.7%
それ以外の医療機関	103	53	36	14	51.5%
総計	4773	3668	788	317	76.8%

(2) リハビリテーションの実施状況（病型別）

リハビリテーションの実施ありは全体の 76.8%であった。病型別にみると、脳梗塞合計*が 80.5%と最も実施率が高かった（表11）。

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

表11 リハビリテーションの実施状況（病型別）

診断病型	登録数	実施	未実施	未記入	実施率
脳内出血	1016	793	166	57	78.1%
くも膜下出血	309	209	92	8	67.6%
脳梗塞合計	3144	2531	383	230	80.5%
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	1140	991	95	54	86.9%
脳梗塞-心原性脳梗塞	768	637	99	32	82.9%
脳梗塞-ラクナ梗塞	679	520	92	67	76.6%
脳梗塞-その他の脳梗塞	319	224	45	50	70.2%
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	128	83	37	8	64.8%
脳梗塞-未記入	110	76	15	19	69.1%
その他の非外傷性頭蓋内出血	59	41	8	10	69.5%
一過性脳虚血発作 TIA	245	94	139	12	38.4%
総計	4773	3668	788	317	76.8%

(3) 急性期治療を担う医療機関*におけるリハビリテーションの実施状況（意識障害の程度別）

リハビリテーションの実施率では、意識障害の程度が軽度である JCS I で 86.9%と最も高く、重度である JCS III で 53.3%と最も低かった（表12）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

表12 リハビリテーションの実施状況(意識障害の程度別)

意識障害	登録数	実施	未実施	未記入	実施率
意識障害あり-JCS I	1339	1164	147	28	86.9%
意識障害あり-JCS II	449	385	51	13	85.7%
意識障害あり-JCS III	362	193	166	3	53.3%
意識障害なし	1956	1554	351	51	79.4%
未記入	127	23	5	99	18.1%
総計	4233	3319	720	194	78.4%

(4) リハビリテーションの種類別実施状況 (病型別)

リハビリテーションの種類別にみた状況 (複数回答) は、理学療法は 3,561 件 (84.1%)、作業療法は 3,012 件 (71.1%)、言語療法は 2,311 件 (54.6%) であった (表 13)。

表13 リハビリテーションの種類別実施状況(病型別)

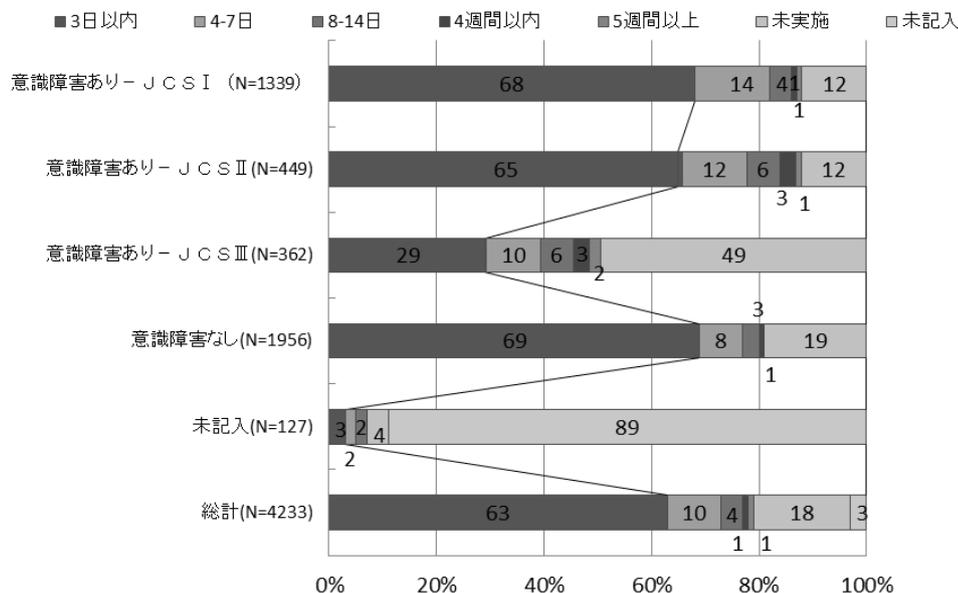
診断病型	登録数	理学療法	作業療法	言語療法
脳内出血	1016	781 (88.3%)	681 (77.0%)	553 (62.6%)
くも膜下出血	309	204 (72.9%)	172 (61.4%)	110 (39.3%)
脳梗塞合計	3144	2447 (87.3%)	2079 (74.2%)	1592 (56.8%)
脳梗塞-アテローム血栓性梗塞	1140	965 (95.3%)	827 (81.6%)	656 (64.8%)
脳梗塞-心原性脳梗塞	768	618 (90.4%)	520 (76.0%)	422 (61.7%)
脳梗塞-ラクナ梗塞	679	494 (81.1%)	414 (68.0%)	285 (46.8%)
脳梗塞-その他の脳梗塞	319	217 (74.8%)	193 (66.6%)	143 (49.3%)
脳梗塞-病型不明の脳梗塞	128	80 (69.0%)	74 (63.8%)	53 (45.7%)
脳梗塞-未記入	110	73 (81.1%)	51 (56.7%)	33 (36.7%)
その他の非外傷性頭蓋内出血	59	41 (80.4%)	15 (29.4%)	9 (17.6%)
一過性脳虚血発作 TIA	245	88 (40.2%)	65 (29.7%)	47 (21.5%)
総計	4773	3561 (84.1%)	3012 (71.1%)	2311 (54.6%)

(5) 急性期治療を担う医療機関*におけるリハビリテーション開始までの日数

入院日から 3 日以内のリハビリテーション開始は全体で 62.8%であった。意識障害の有無別にみると、3 日以内の開始は、意識障害なしで 68.7%を占めた。また、意識障害ありのうち最も重度である JCS IIIでも、29.0%で 3 日以内にリハビリテーションが開始されていた (図 24)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図24 リハビリテーション開始までの日数(意識障害の程度別)



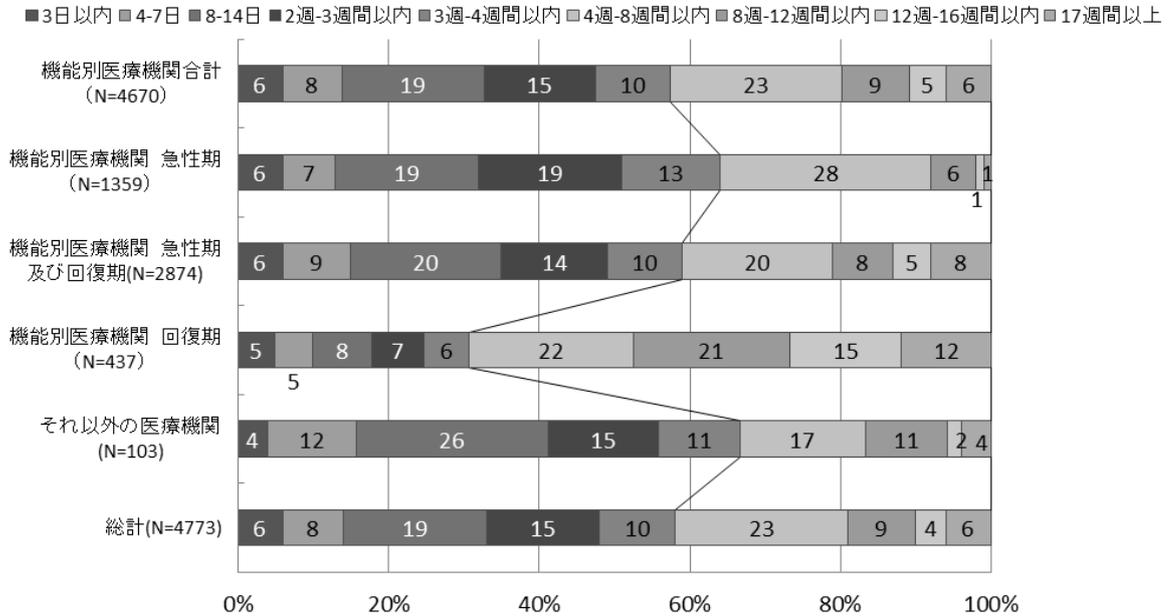
6) 入院から退院までの日数

(1) 入院から退院までの日数 (機能別医療機関別)

急性期治療を担う医療機関*では、入院から4週間以内に60.3%が退院しているが、回復期医療機関では30.9%であった(図25)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

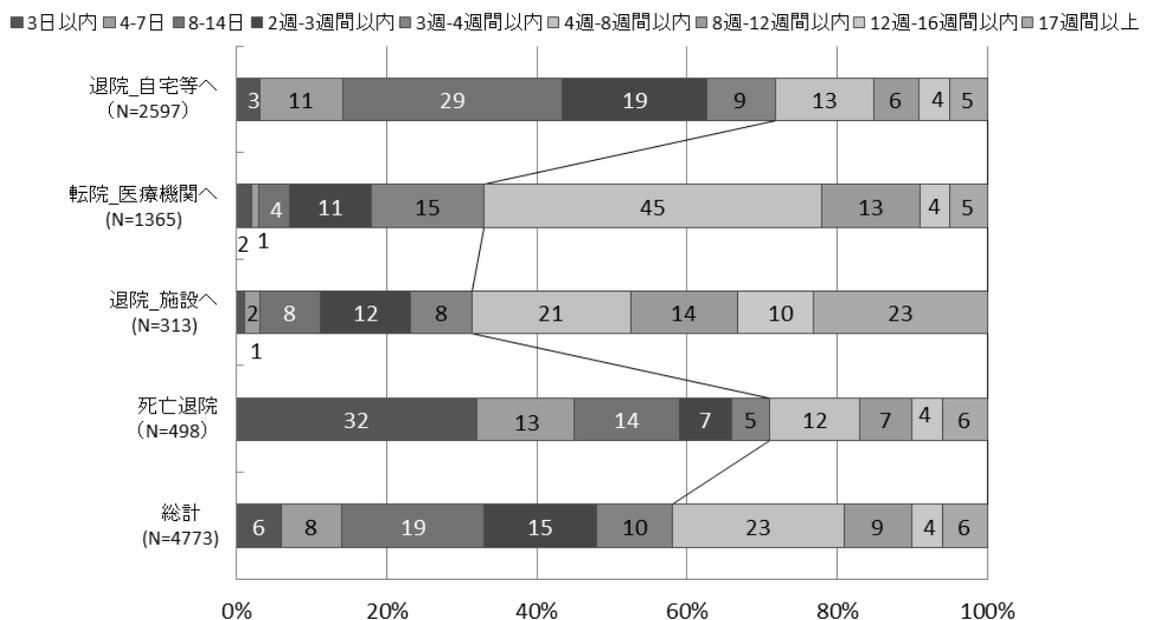
図25 入院から退院までの日数(機能別医療機関別)



(2) 入院から退院までの日数 (退院後の患者転帰別)

自宅等への退院は、入院から4週間以内が71.0%であった。医療機関への転院は、入院から8週間以内が78.2%を占めた(図26)。

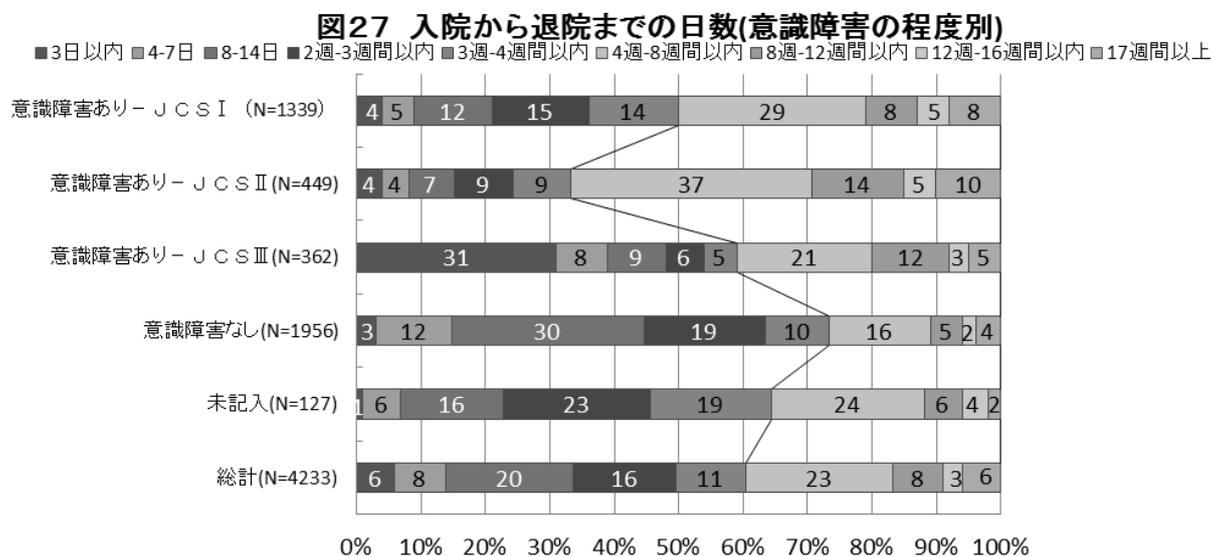
図26 入院から退院までの日数(退院後の患者転帰別)



(3) 急性期治療を担う医療機関*における入院から退院までの日数（意識障害の程度別）

入院から4週間以内の退院が全体の60.3%を占めた。入院から4週間以内の退院を意識障害の有無別にみると、意識障害なしでは73.5%と最も多かった。一方、最も重度であるJCSⅢにおいては、入院日から3日以内の退院が30.7%であった（図27）。

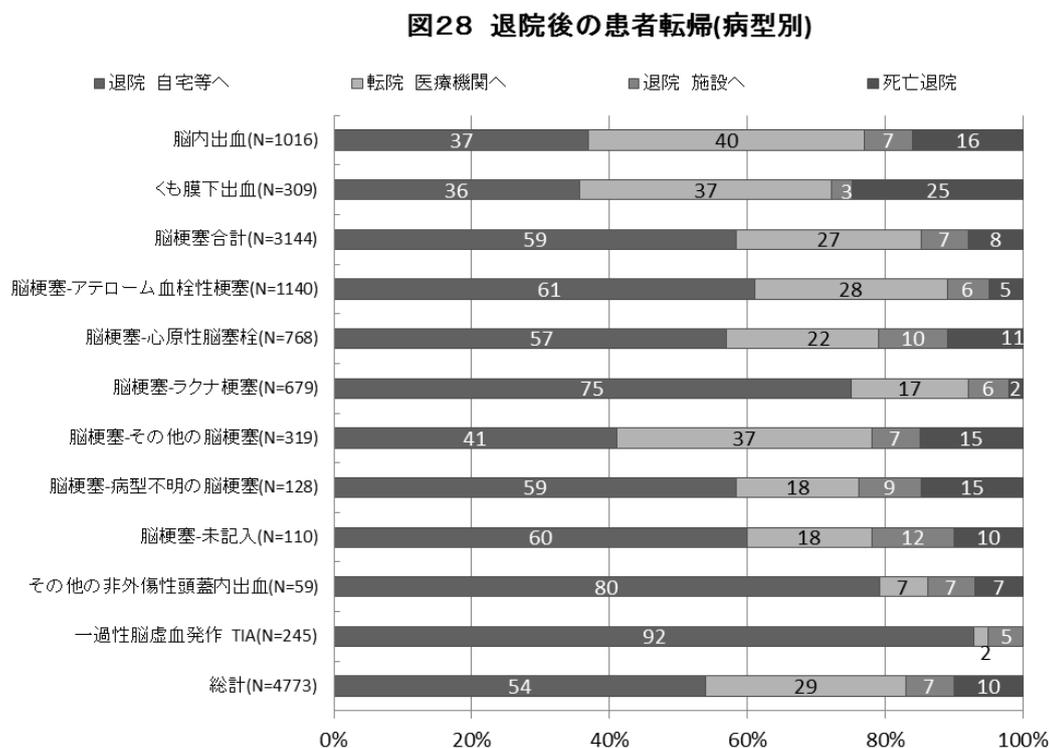
*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計



7) 退院後の患者転帰

退院後の患者転帰の状況は、自宅等への退院が全体の54.4%を占め、次いで医療機関への転院が28.6%であった。病型別にみると、自宅等への退院割合が高かったのは一過性脳虚血発作 TIA (92.2%) であった。死亡退院は全体の10.4%であり、病型別では、くも膜下出血が24.9%、脳内出血が16.3%の順に高く、脳梗塞合計*は8.0%であった。

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計



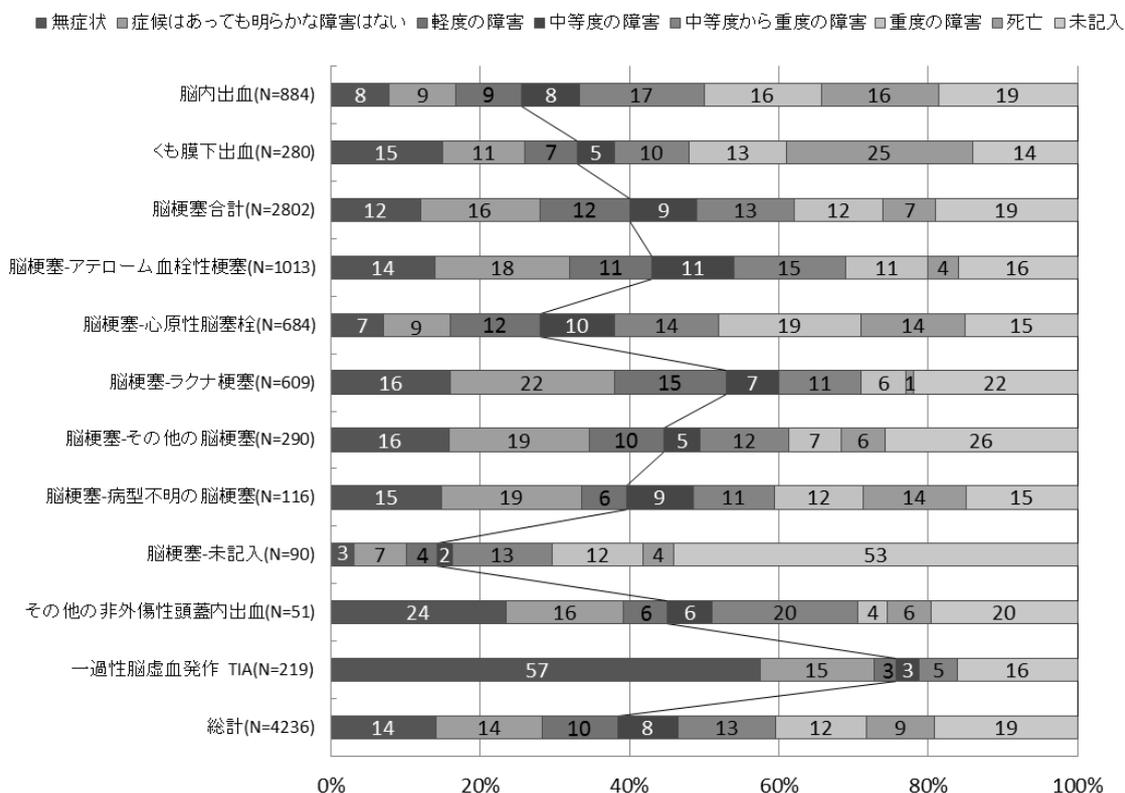
8) mRS(modified ranking-scale)判定基準 【追加】

(1) 病型別・mRS 判定基準

mRS 判定基準を病型別にみると、無症状、症状はあっても明らかな障害がない、軽度の障害がある合計の割合は、脳出血は 25.0%、くも膜下出血 33.2%、脳梗塞合計*は 40.5%、一過性脳虚血発作 TIA は 75.3%であった (図 29)。

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、脳梗塞未記入の合計

図29 病型別・mRS判定基準

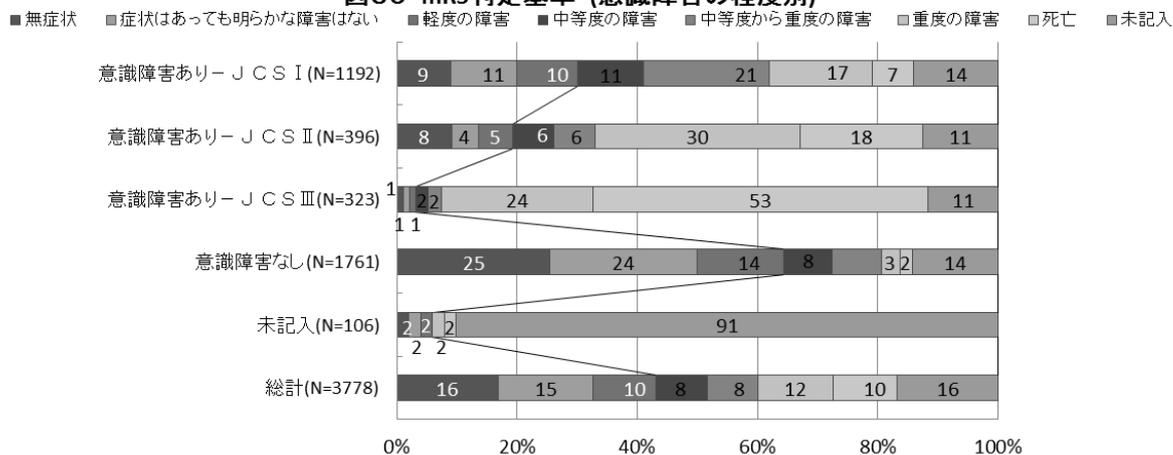


(2) 急性期治療を担う医療機関*における mRS 判定基準 (意識障害の程度別)

急性期治療を担う医療機関*における意識障害の程度別での mRS 判定基準は、無症状、症状はあっても明らかな障害がない、軽度の障害がある合計の割合は、JCS I では 29.9%、JCS II は 17.4%、重度である JCS III は 2.5%であった。(図 30)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図30 mRS判定基準 (意識障害の程度別)



6 発症時合併症の状況

1) 性別年齢階級別にみた発症時の合併症

性別年齢階級別にみた発症時の合併症（高血圧、糖尿病、脂質異常症、心房細動、心筋梗塞の状況）は図 31-1、図 32-1、図 33-1、図 34-1、図 35-1 のとおりであった。

図31-1 発症時の合併症(高血圧あり)

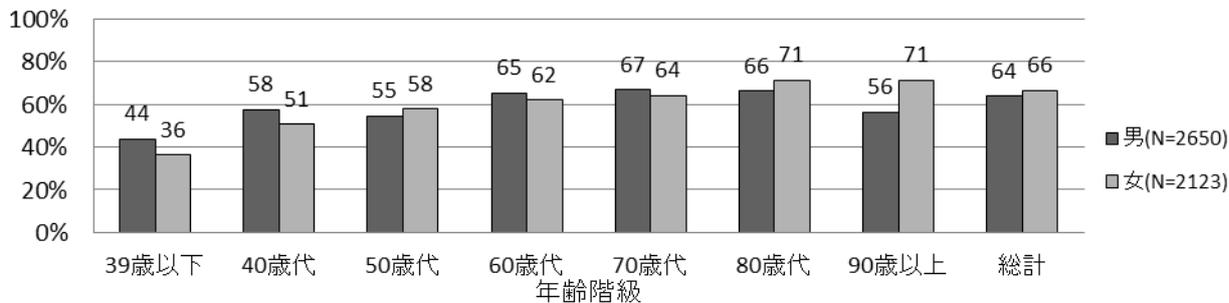


図32-1 発症時の合併症(糖尿病あり)

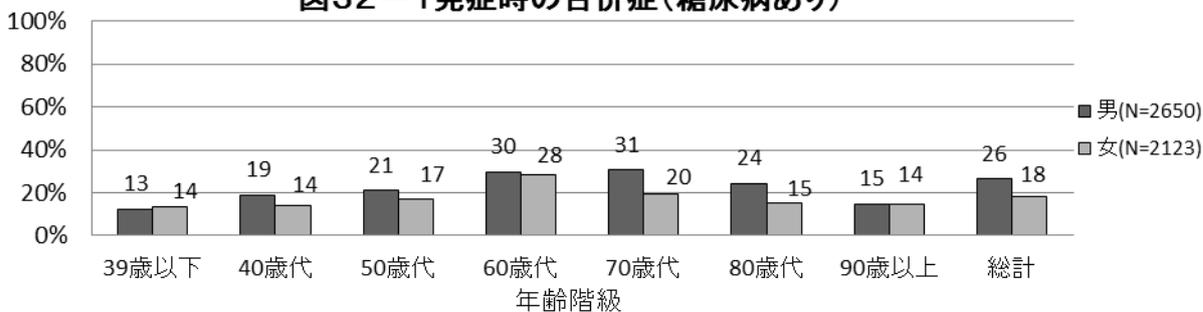


図33-1 発症時の合併症(脂質異常症あり)

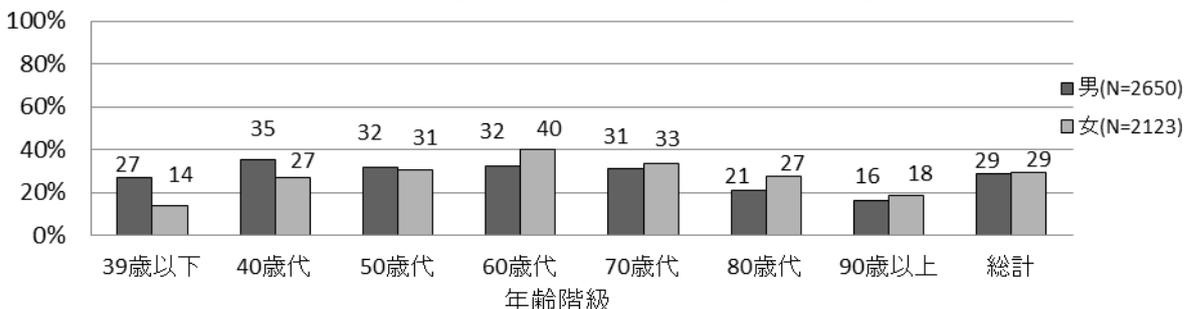


図34-1 発症時の合併症(心房細動あり)

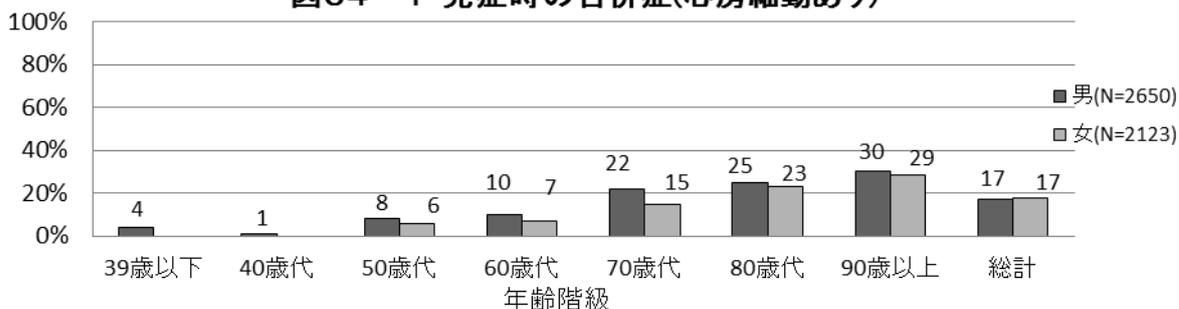
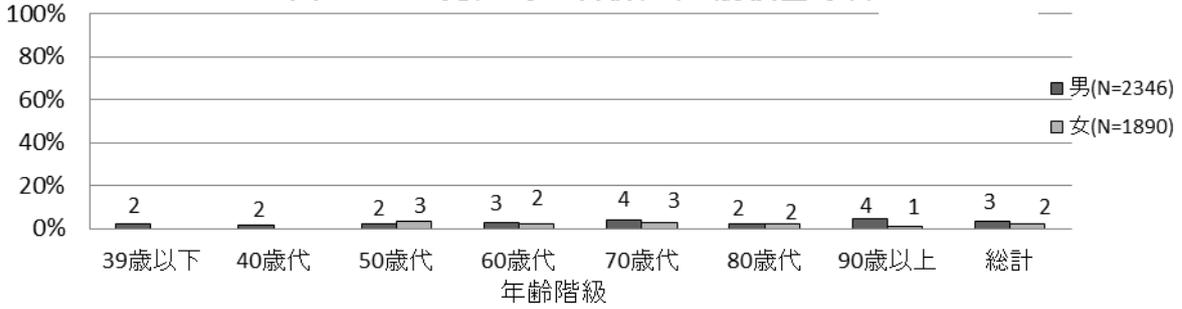


図35-1 発症時の合併症(心筋梗塞あり) 【追加】



2) 治療状況の内識別にみた発症時の合併症

治療状況の内識別にみた発症時の合併症は、図 31-2、図 32-2、図 33-2、図 34-2 のとおりであった。平成 27 年では、脂質異常症で治療中が増加した。

心筋梗塞の治療状況の推移は、平成 27 年から集計開始となっており、平成 27 年のみ表示した(図 35-2)。

図31-2 発症時合併症 治療状況(高血圧)

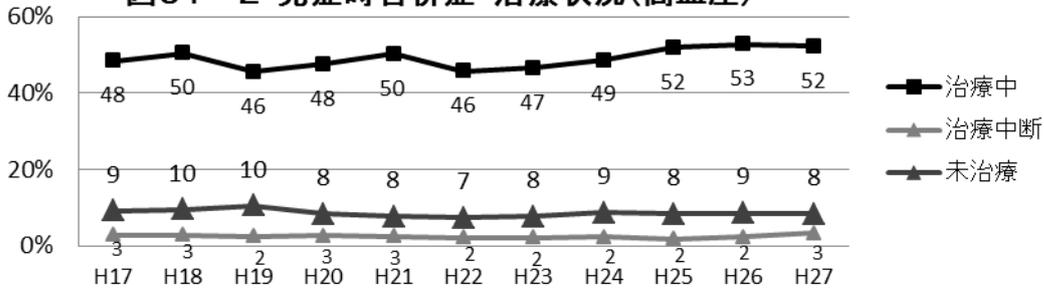


図32-2 発症時合併症 治療状況(糖尿病)

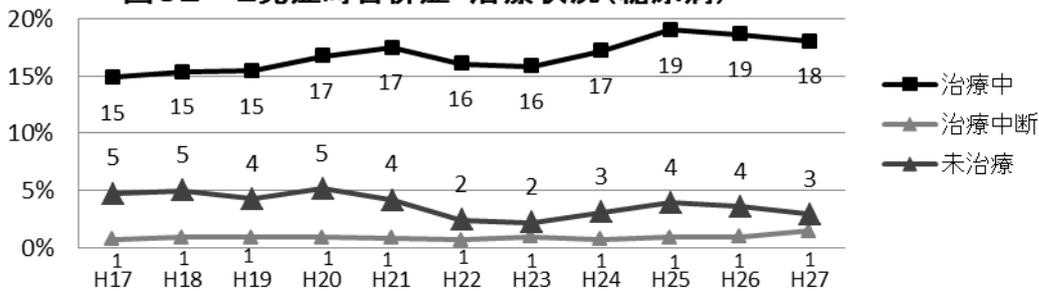


図33-2 発症時合併症 治療状況(脂質異常症)

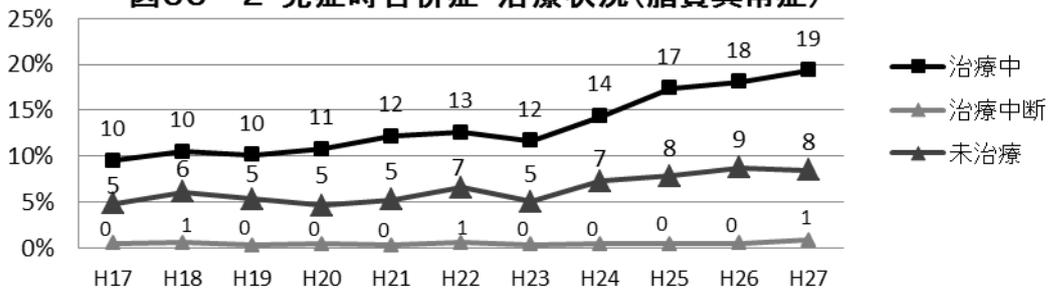


図34-2 発症時合併症 治療状況(心房細動)

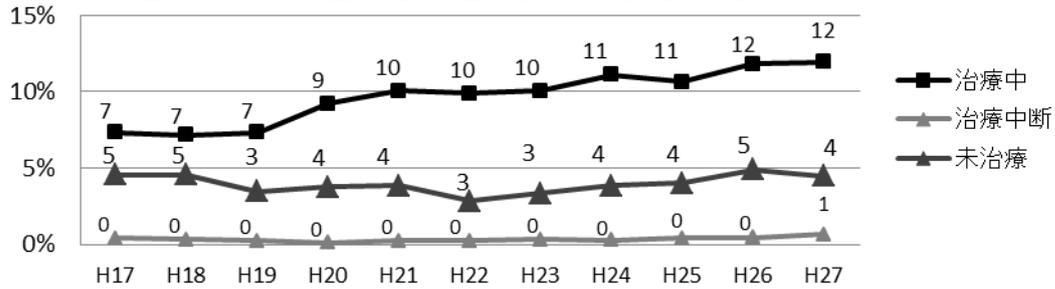
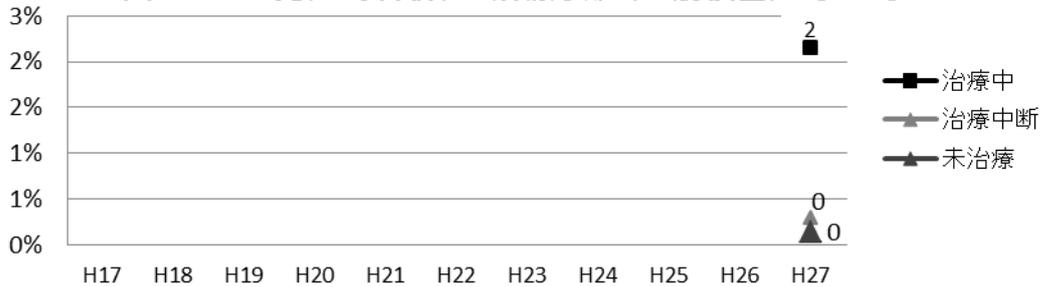


図35-2 発症時合併症 治療状況(心筋梗塞) 【追加】



7 生活習慣等の状況

1) 喫煙習慣

性別年齢階級別にみた発症時の喫煙習慣の状況は、発症まで喫煙ありが男で28.0%、女で7.0%、過去に喫煙ありが男で30.9%、女で6.4%であった(図36・37)。

病型別にみた喫煙習慣の状況は、発症まで喫煙ありがアテローム血栓性梗塞で22.5%と最も多かった(図38)。

急性期治療を担う医療機関*における意識障害の程度別は、発症まで喫煙ありが意識障害なしで23.4%と最も多かった(図39)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図36 喫煙の状況(発症まで喫煙あり)

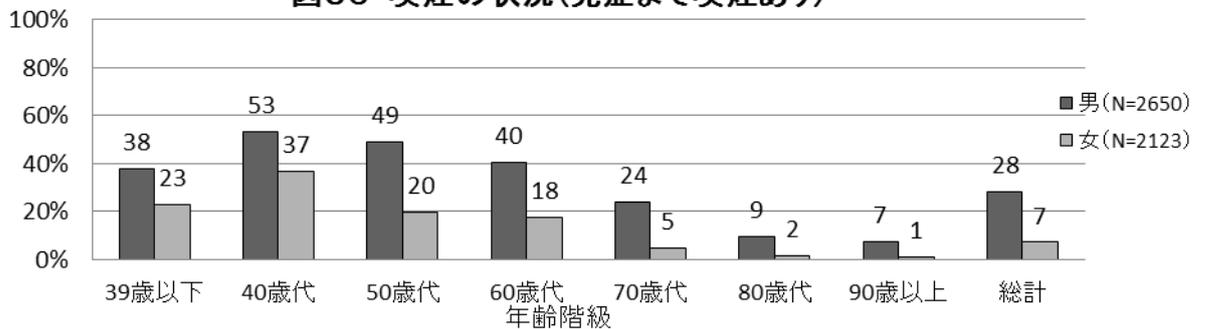


図37 喫煙の状況(過去に喫煙あり)

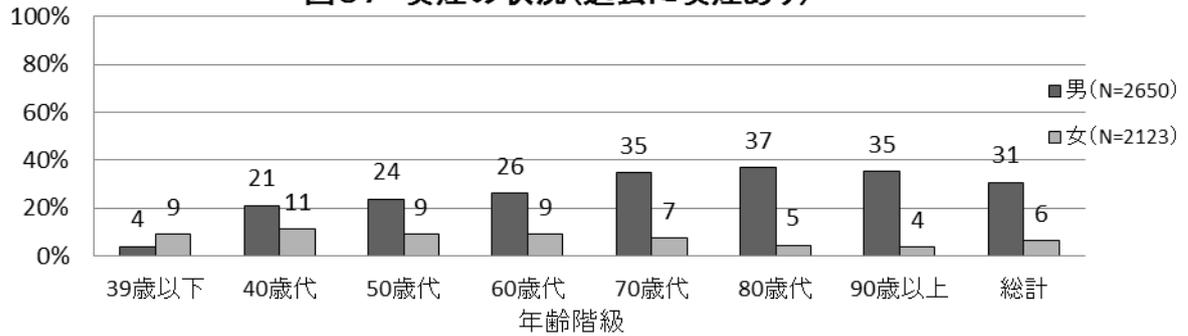


図38 発症時の喫煙習慣(病型別)

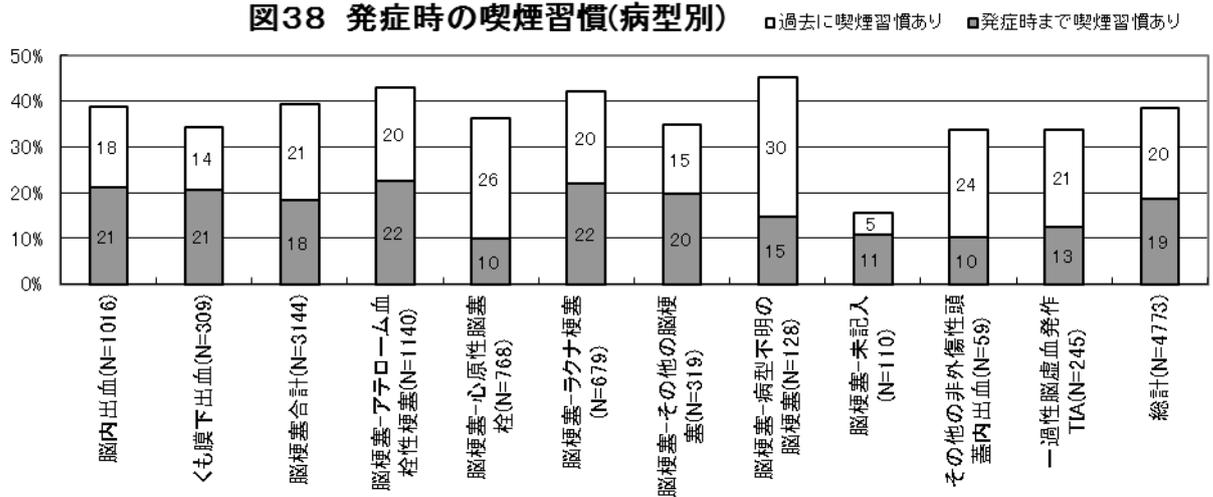
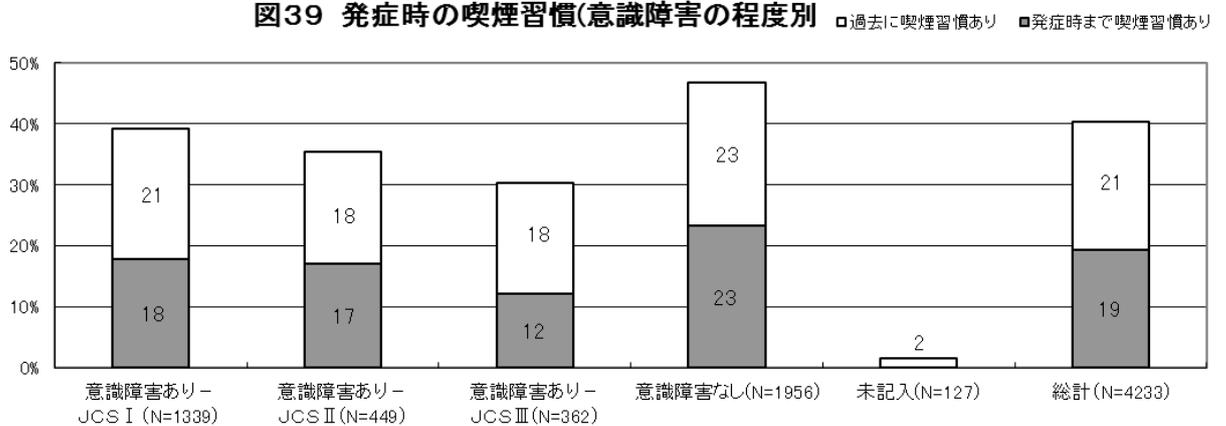


図39 発症時の喫煙習慣(意識障害の程度別)



2) 飲酒習慣

性別年齢階級別にみた発症時の飲酒習慣の状況は、毎日飲酒ありが男で33.7%、女で6.1%、機会飲酒ありは男で15.5%、女で8.2%であった(図40・41)。病型別では毎日飲酒ありが脳内出血で25.8%とやや多かった(図42)。

急性期治療を担う医療機関*における意識障害の程度別では、意識障害なしで40.7%と多かった(図43)。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図40 飲酒の状況(毎日飲酒あり)

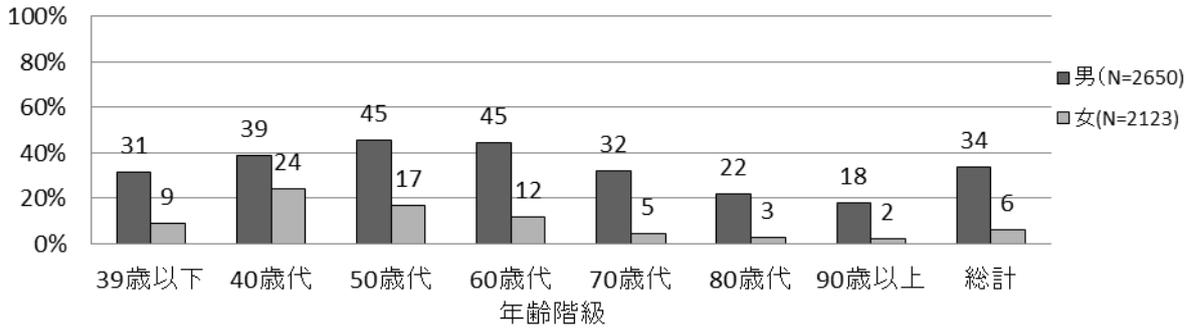


図41 飲酒の状況(機会飲酒あり)

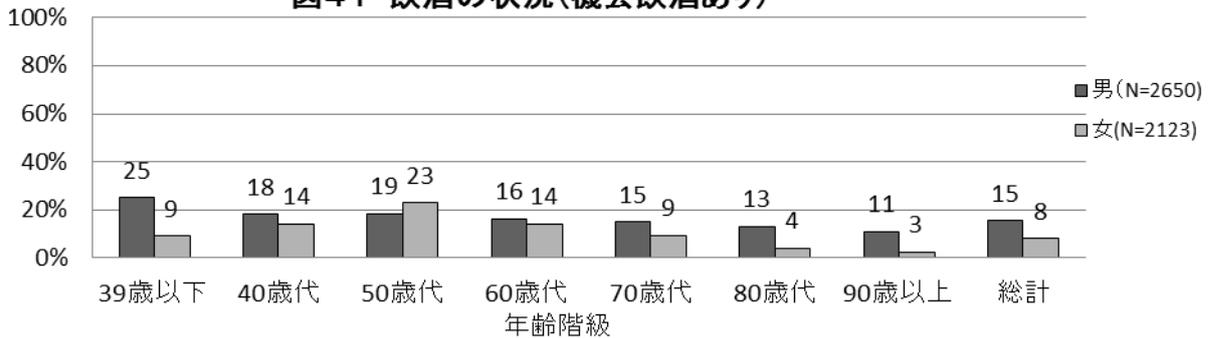


図42 発症時の飲酒習慣(病型別)

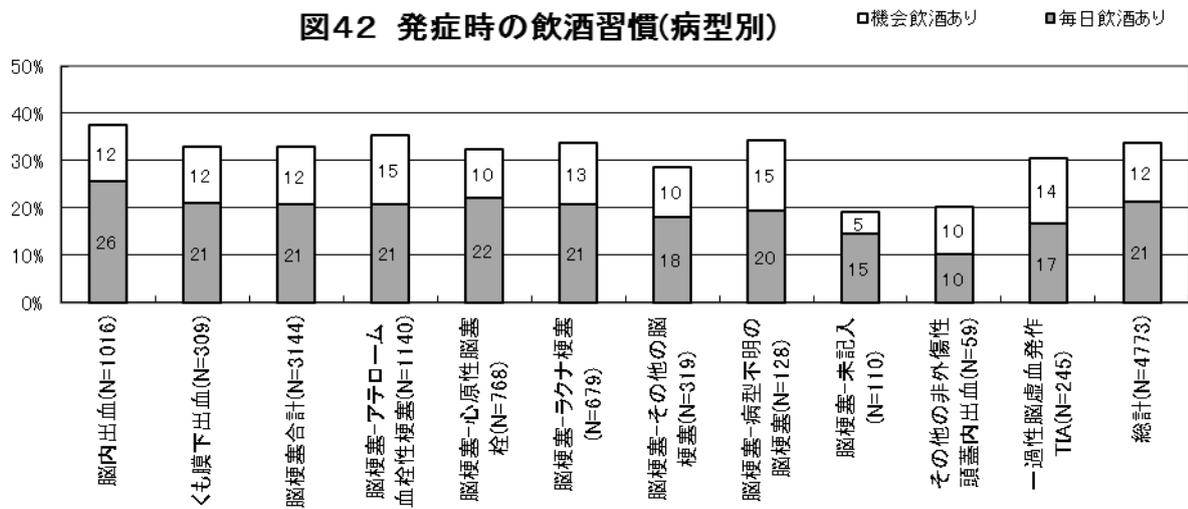
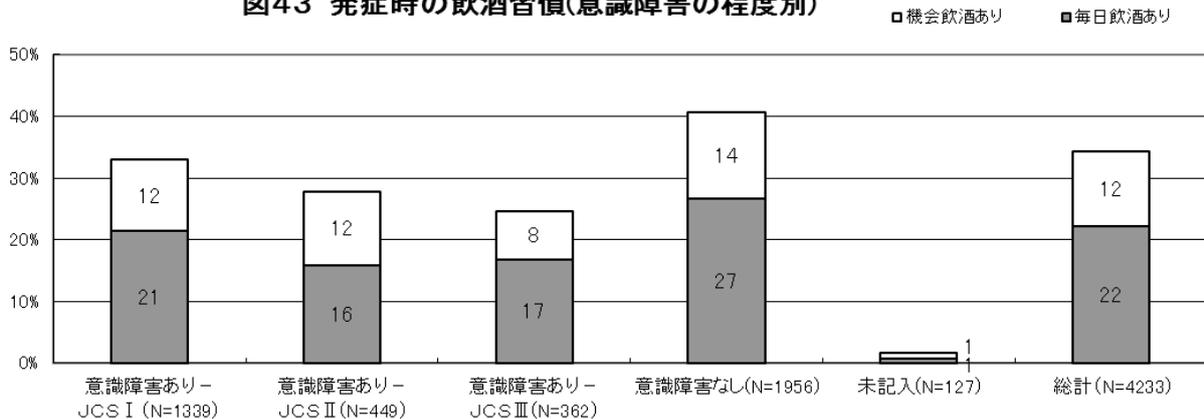


図43 発症時の飲酒習慣(意識障害の程度別)



3) 肥満【変更】

性別年齢階級別にみた肥満（BMI 25.0 以上）の状況は男で 25.4%、女で 20.9%であった（図 44）。

病型別にみた肥満の状況は、アテローム血栓性梗塞で 28.1%とやや多く（図 45）、急性期治療を担う医療機関*における意識障害の程度別では、意識障害なしで 30.9%と最も多かった（図 46）。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

図 44 肥満(BMI 25.0以上)の状況

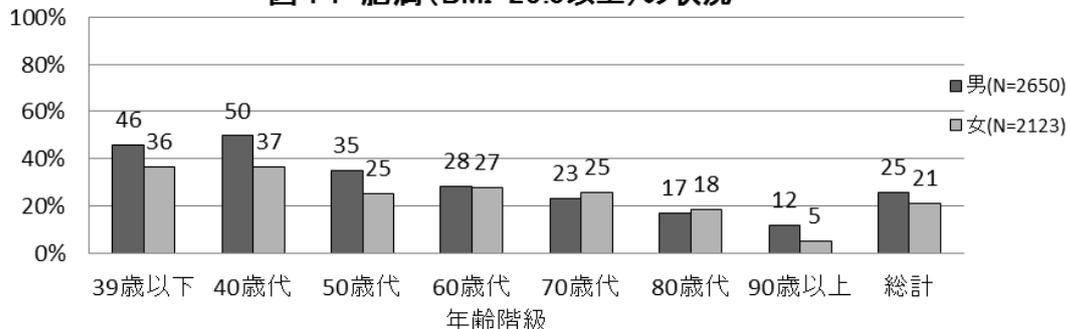


図 45 肥満(BMI 25.0以上)の状況(病型別)

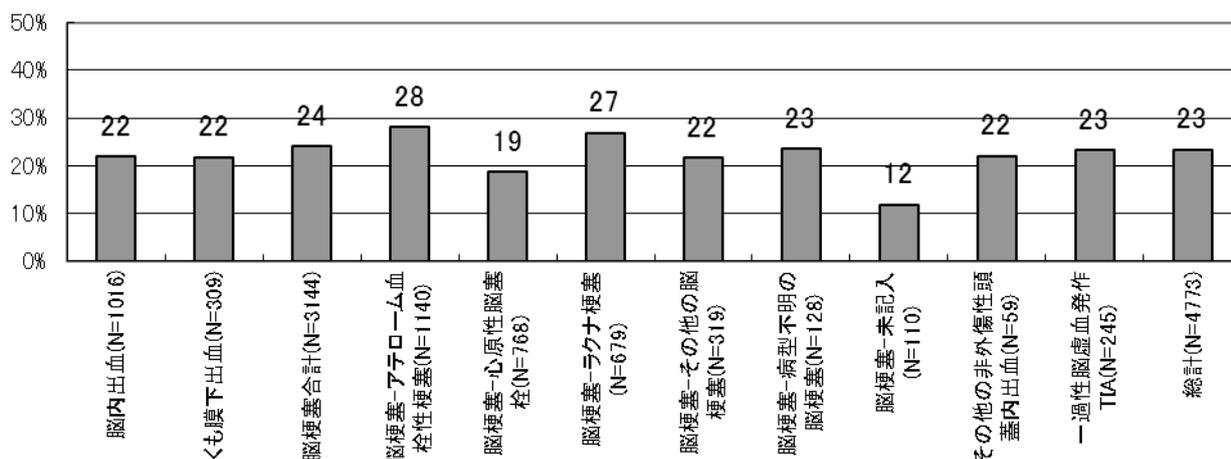
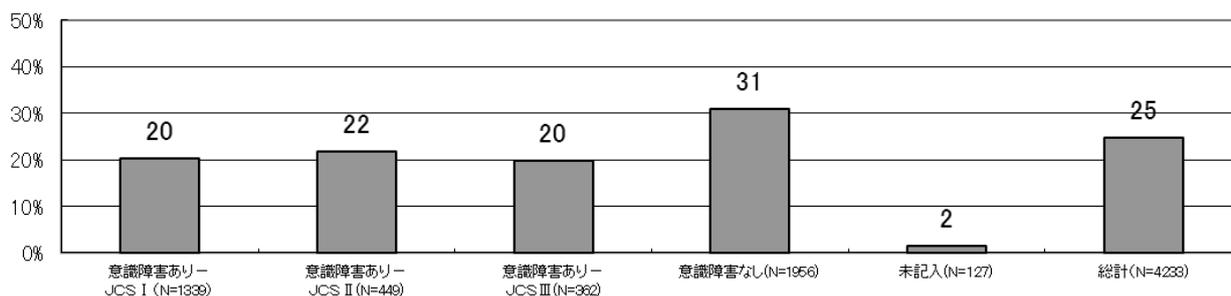


図 46 肥満(BMI 25.0以上)の状況(意識障害の程度別)



8 急性期治療を担う医療機関*における脳卒中啓発プロジェクトの状況

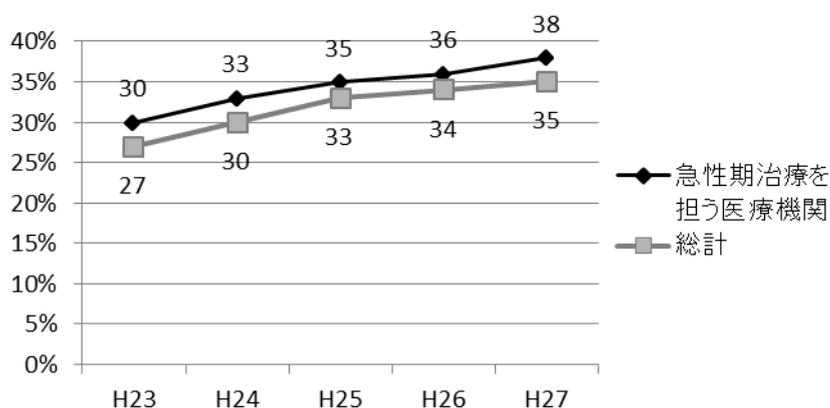
本県では、平成 24 年より脳卒中啓発プロジェクト事業として積極的な脳卒中啓発活動を実施している。ここでは、平成 23 年から平成 27 年までのプロジェクト実施前後の状況について報告する。

*「急性期医療機関」と「急性期及び回復期医療機関」の合計

(1) 機能別医療機関別 3 時間以内受診の状況

平成 27 年は 37.5%であり、平成 23 年と比較すると 7.4pt の増加がみられた。また、県全体では、平成 27 年は 34.8%であり、平成 23 年と比較すると 7.4pt の増加がみられた（図 47）。

図47 機能別医療機関別3時間以内受診の状況

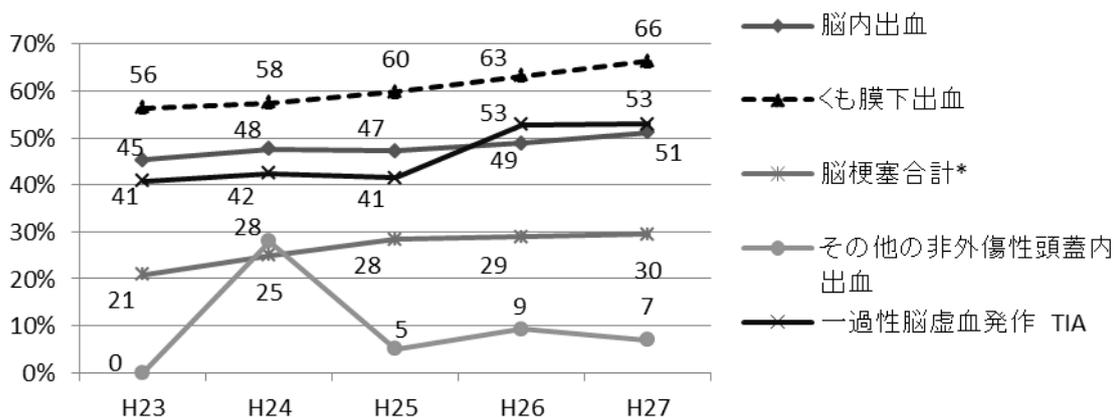


(2) 病型別 3 時間以内受診の状況

くも膜下出血では、平成 27 年は 66.3%で、平成 23 年と比較すると 9.9pt 増加した。一過性脳虚血発作 TIA では、平成 27 年は 53.0%で、平成 23 年と比較すると 12.1pt 増加した。

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

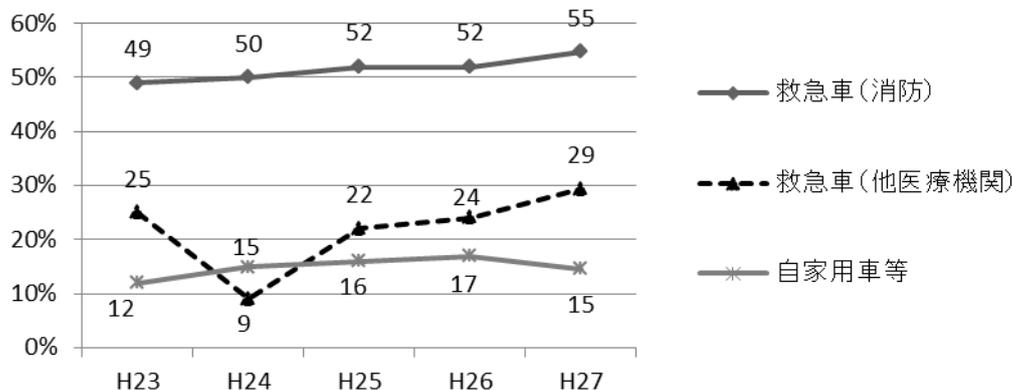
図48 病型別3時間以内受診の状況



(3) 受診の手段別 3 時間以内受診の状況

救急車（消防）が、平成 27 年は 54.8%であり、平成 23 年と比較すると 6.0pt 増加した。

図49 受診の手段別3時間以内受診の状況



<参考>発症月別診断病型別登録件数

ここでは脳卒中登録票（様式1号）に基づき情報提供された脳卒中患者情報のうち、平成27年1月1日から平成27年12月31日までに医療機関へ入院した4,988件について扱う。（平成28年7月末受付分まで）

*アテローム血栓性梗塞、心原性脳塞栓、ラクナ梗塞、その他の脳梗塞、病型不明の脳梗塞、未記入の合計

図50-1 平成27年 発症月あたり診断病型別登録件数

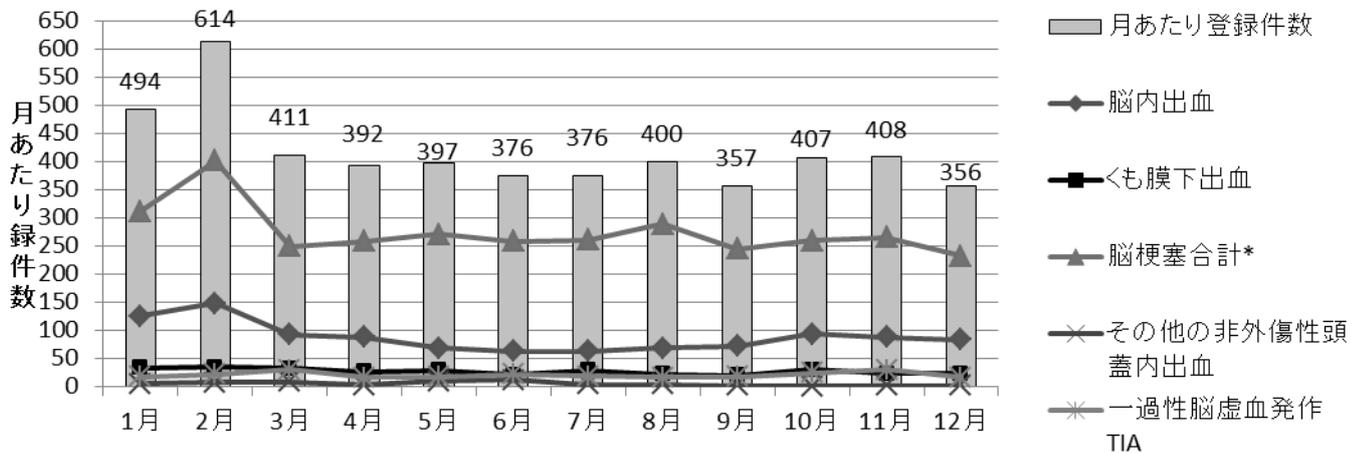


図50-2 平成27年 発症月別診断病型別1日あたり登録件数

